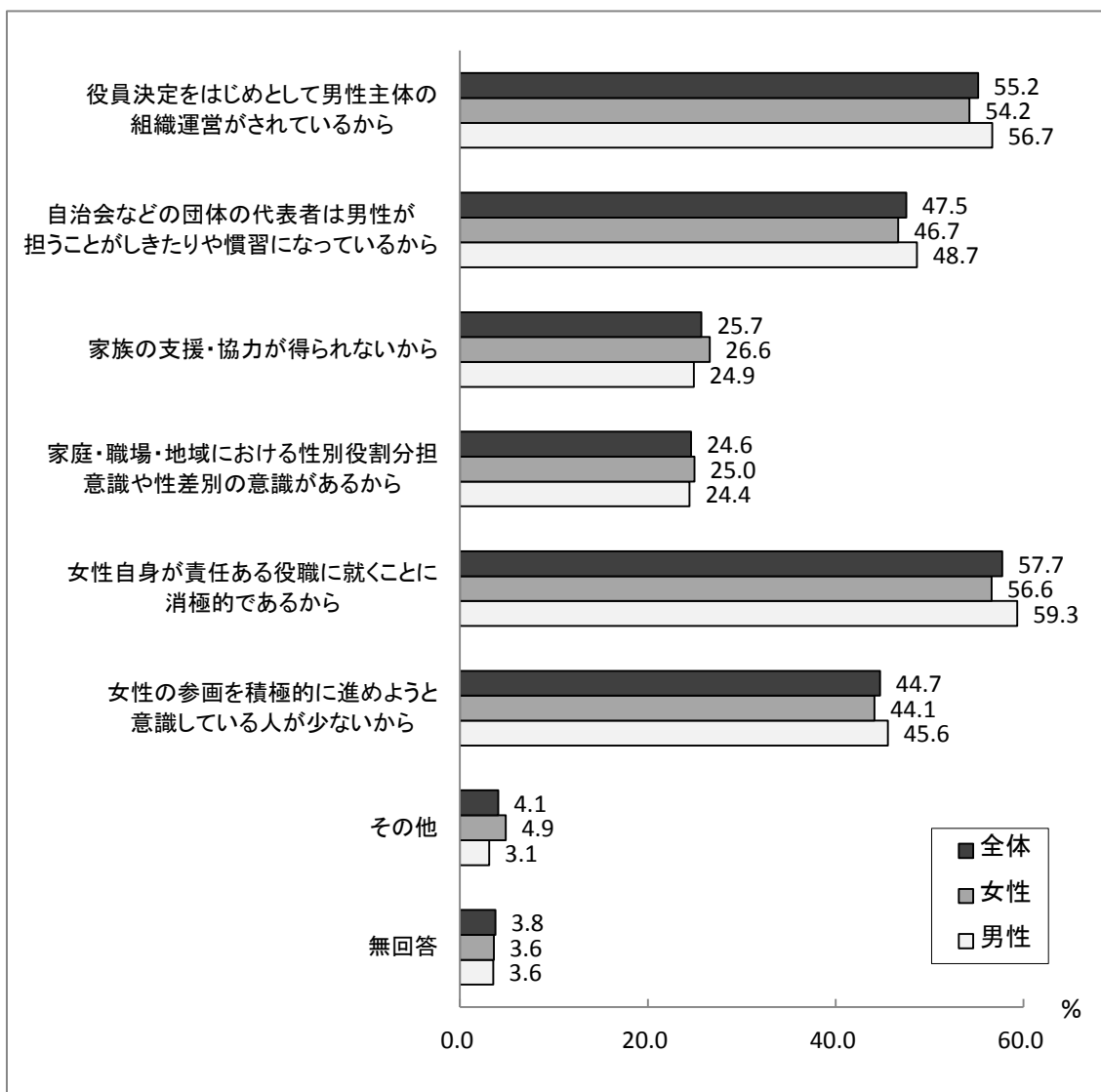


【5】 政策・方針決定について

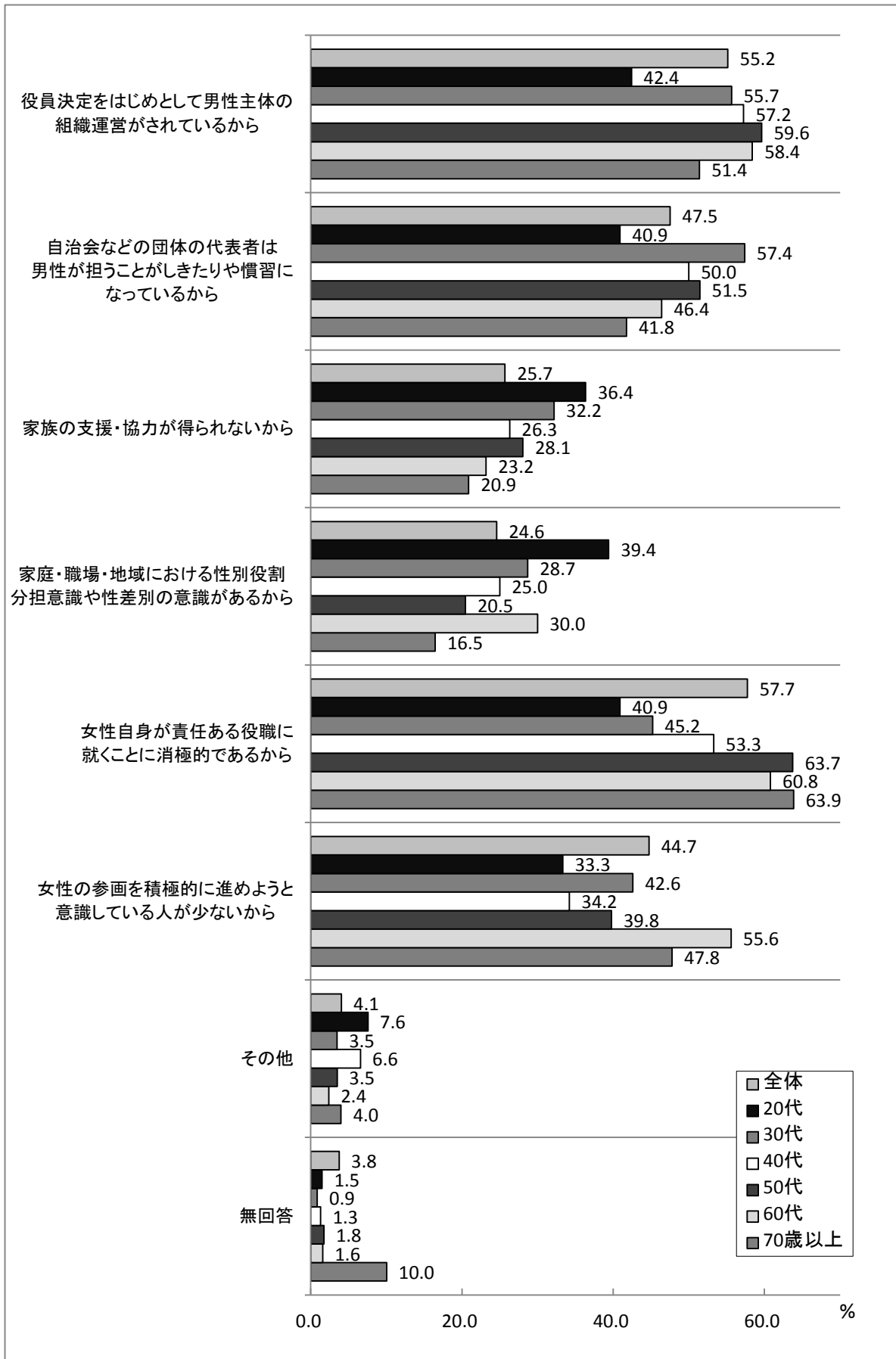
問7 女性の社会参画は進みつつありますが、町内会や自治会の長、PTA会長などには、まだ、女性が少ないのが現状です。このような方針決定の過程に女性の参画が少ない理由は何だと思えますか。あなたのお考えに近いものを3つまで選んでください。

- 男女とも「女性自身が責任ある役職に就くことに消極的であるから」の割合が最も高く、次いで「役員決定をはじめとして男性主体の組織運営がされているから」の割合が高い。
- 年代別では、20代と40代で「役員決定をはじめとして男性主体の組織運営がされているから」、30代で「自治会などの団体の代表者は男性が担うことがしきたりや慣習になっているから」の割合が最も高い。50代以上は、「女性自身が責任ある役職に就くことに消極的であるから」の割合が最も高くなっている。

《 性別 》



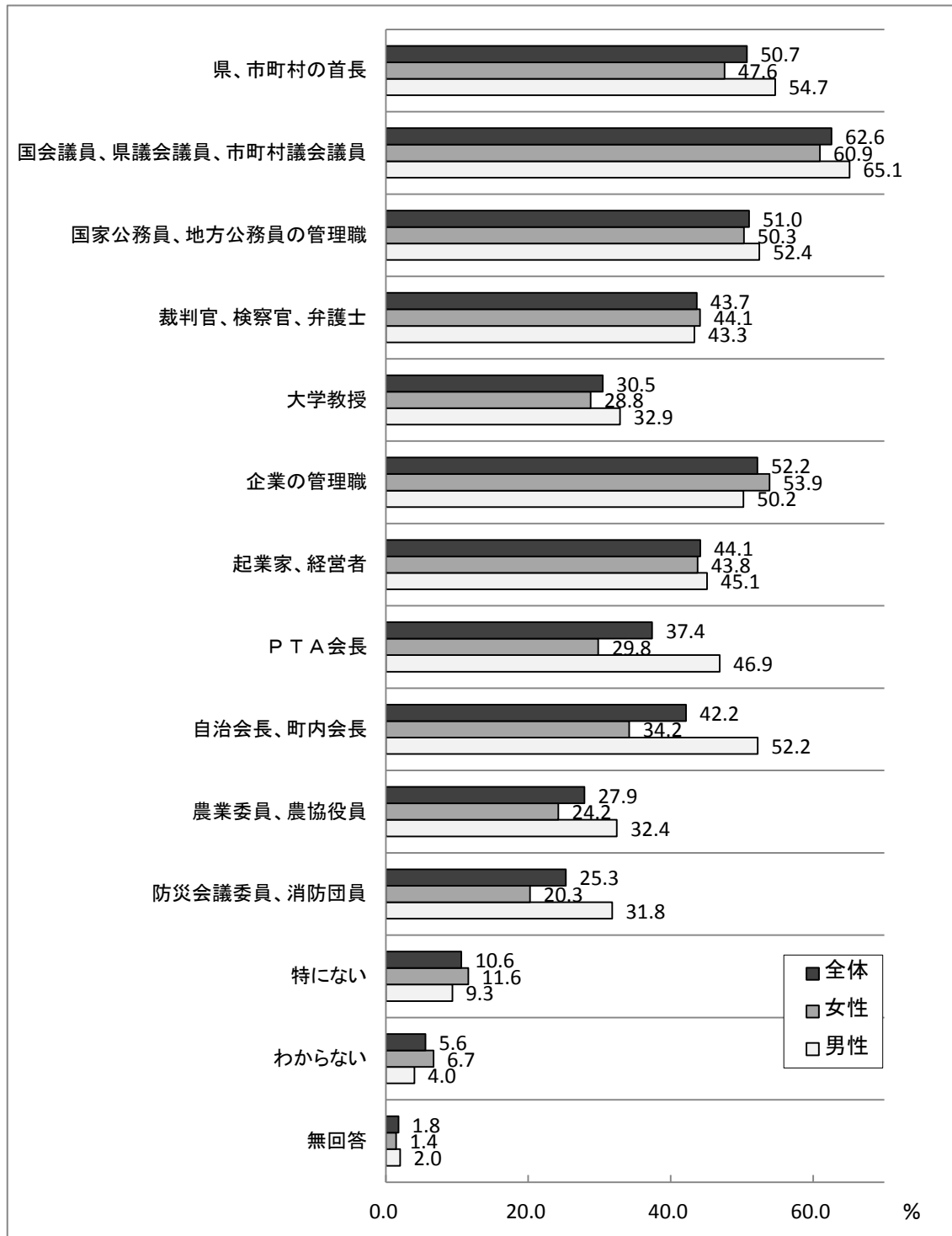
《 年代別 》



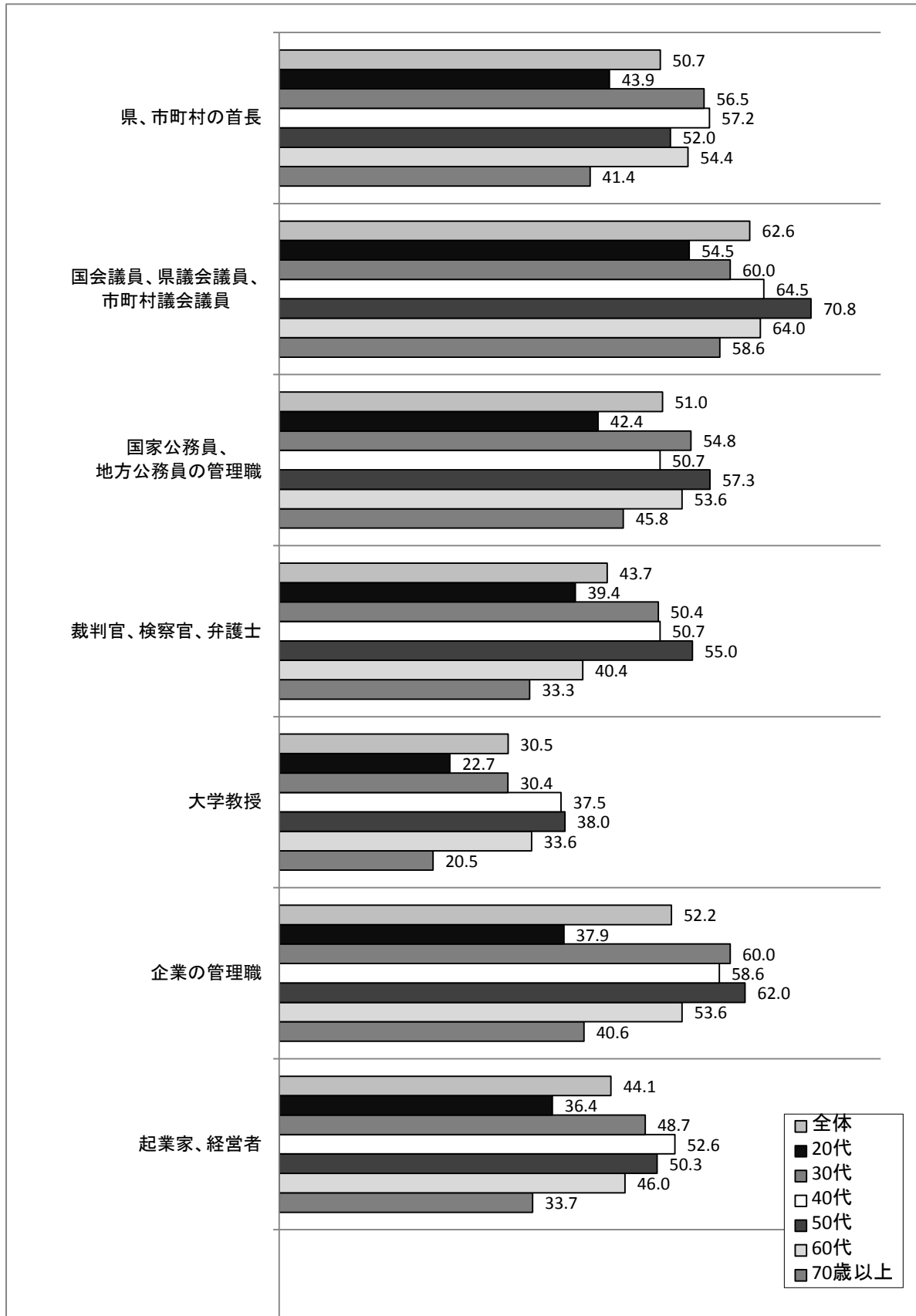
問8 あなたが、次にあげるような職業や役職において、今後女性がもっと増える方がよいと思うのはどれですか。この中からいくつでもあげてください。

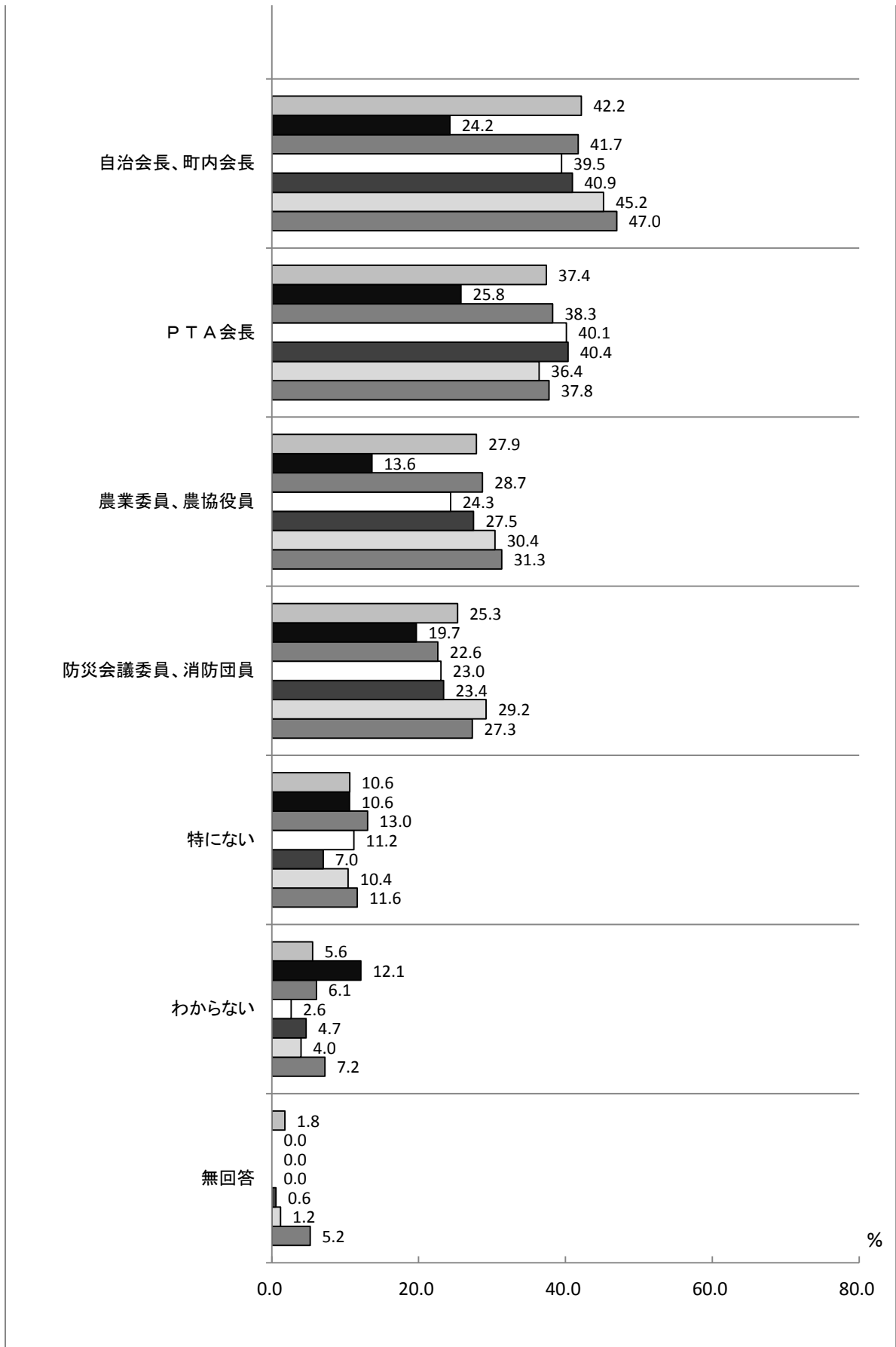
- 男女別で割合の差が大きいものは、「自治会長・町内会長」で18.0ポイント、「PTA会長」17.1ポイント、「防災会議委員・消防団員」11.5ポイントの差で、いずれも男性が女性より高くなっている。
- 「企業の管理職」は、女性53.9%、男性50.2%で女性が男性より高くなっている。

《 性別 》



《 年代別 》

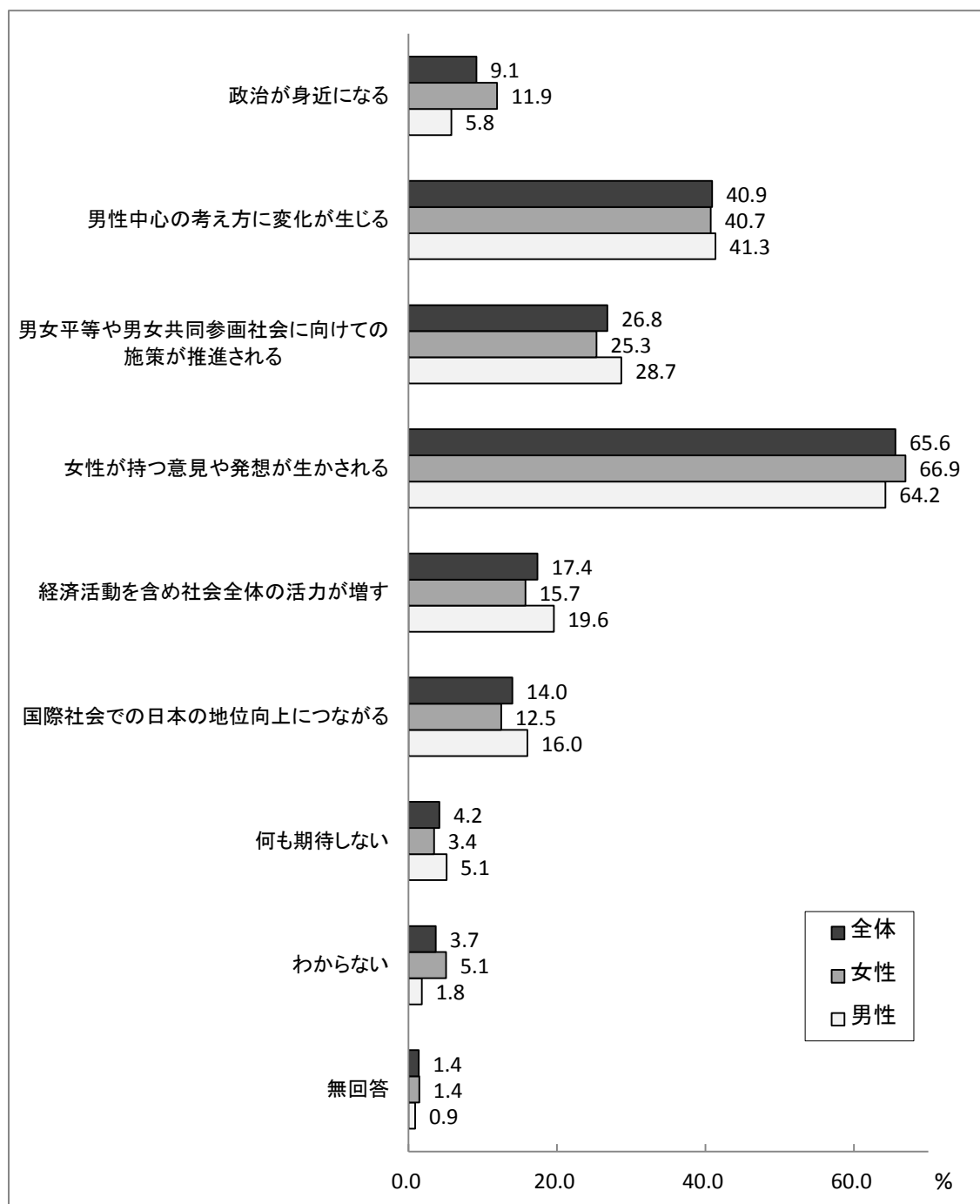




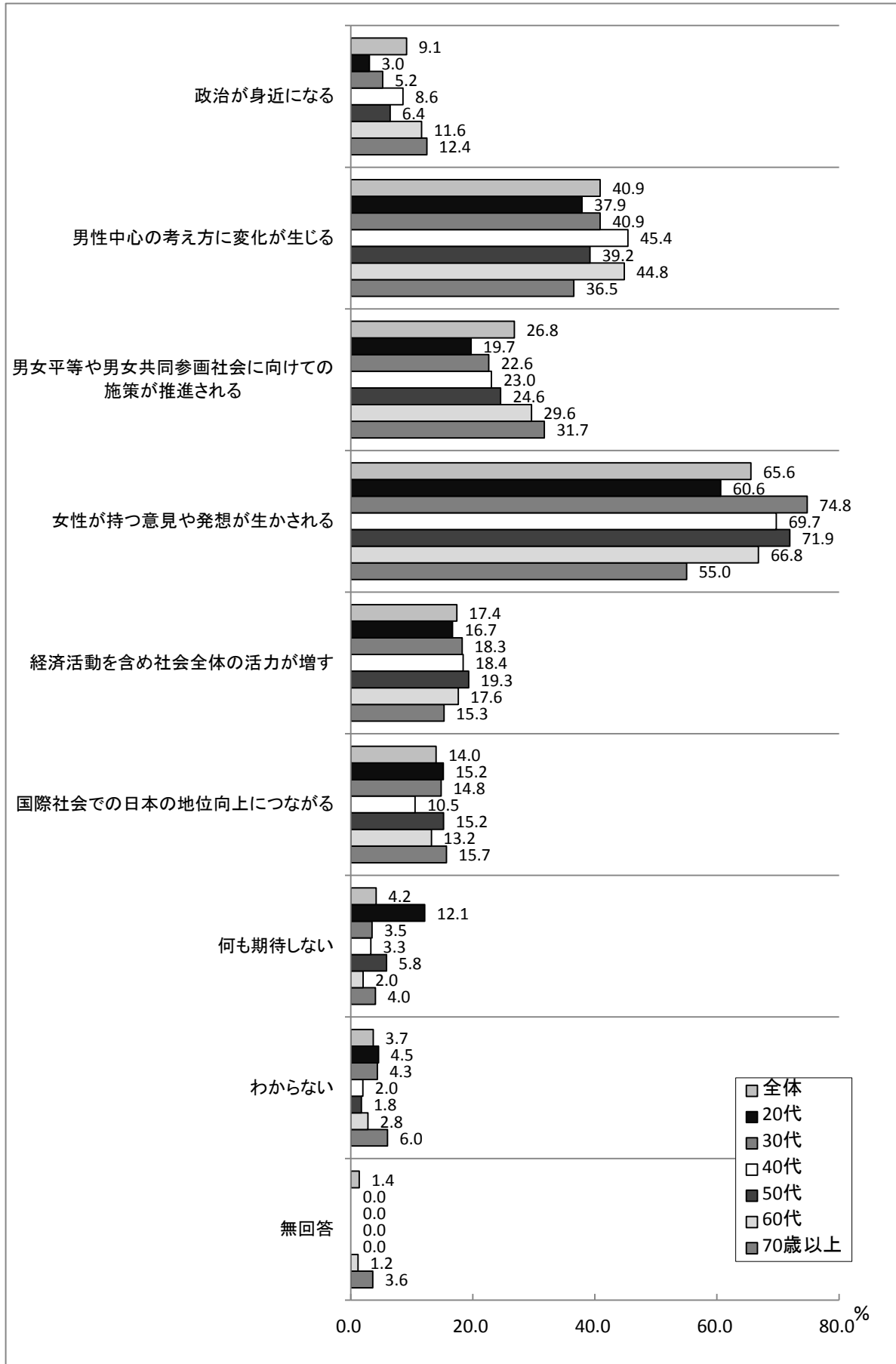
問9 あなたは、政策方針決定の場に女性が増えることで何を期待しますか。次の中から、あなたのお考えに最も近いものを2つ選んでください。

- 男女とも「女性が持つ意見や発想が活かされる」の割合が最も高く、次いで「男性中心の考え方に変化が生じる」の割合が高い。
- 年代別では、20代で「何も期待しない」割合が12.1%と、他の年代より高くなっている。

《 性別 》



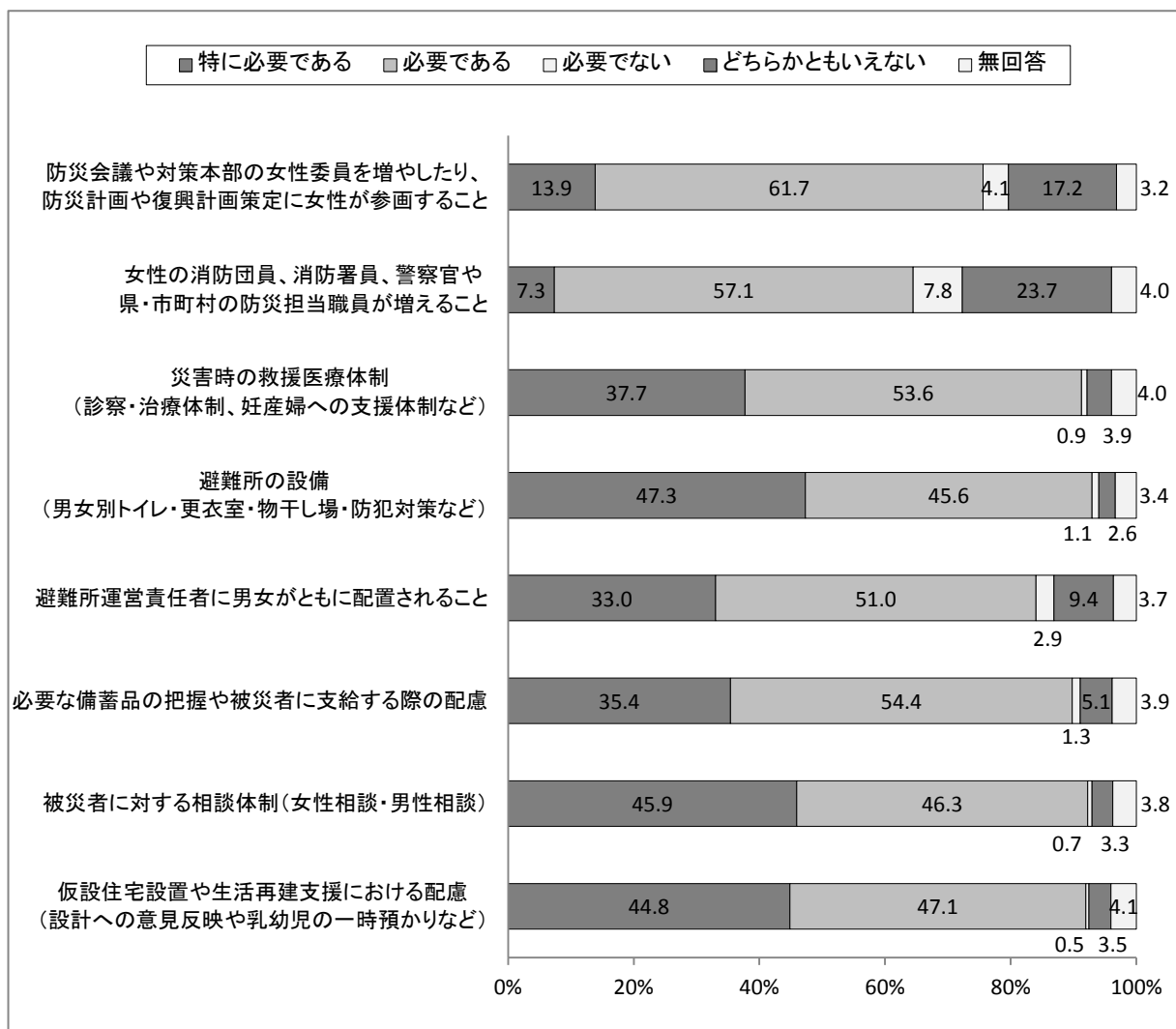
《 年代別 》



【6】 防災・災害復興について

問10 あなたは、防災・災害復興対策において、男女共同参画の視点からどのような取組が必要であると思いますか。あなたのお考えに最も近いと思うものをそれぞれ1つ選んでください。

- 「特に必要である」または「必要である」とする割合は、「避難所の設備」で92.9%、「被災者に対する相談体制」で92.2%、「仮設住宅設置や生活再建支援における配慮」で91.9%、「災害時の救急医療体制」で91.3%、「必要な備蓄品の把握や被災者に支給する際の配慮」で89.8%、「避難所運営責任者に男女がともに配置されること」で84.0%、「防災会議や対策本部の女性委員を増やしたり、防災計画や復興計画策定に女性が参画すること」で75.6%、「女性の消防団員、消防署員、警察官や県・市町村の防災担当職員が増えること」で64.4%となっている。

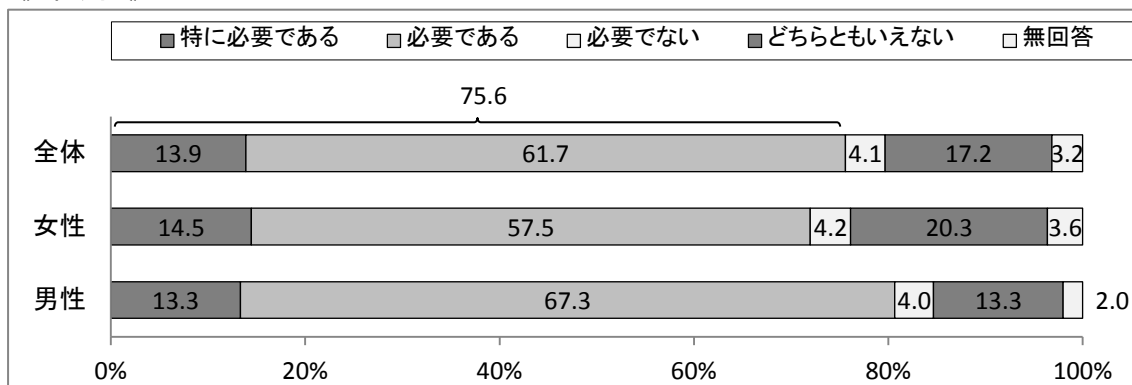


問10 あなたは、防災・災害復興対策において、男女共同参画の視点からどのような取組が必要であると思いますか。あなたのお考えに最も近いと思うものをそれぞれ1つ選んでください。

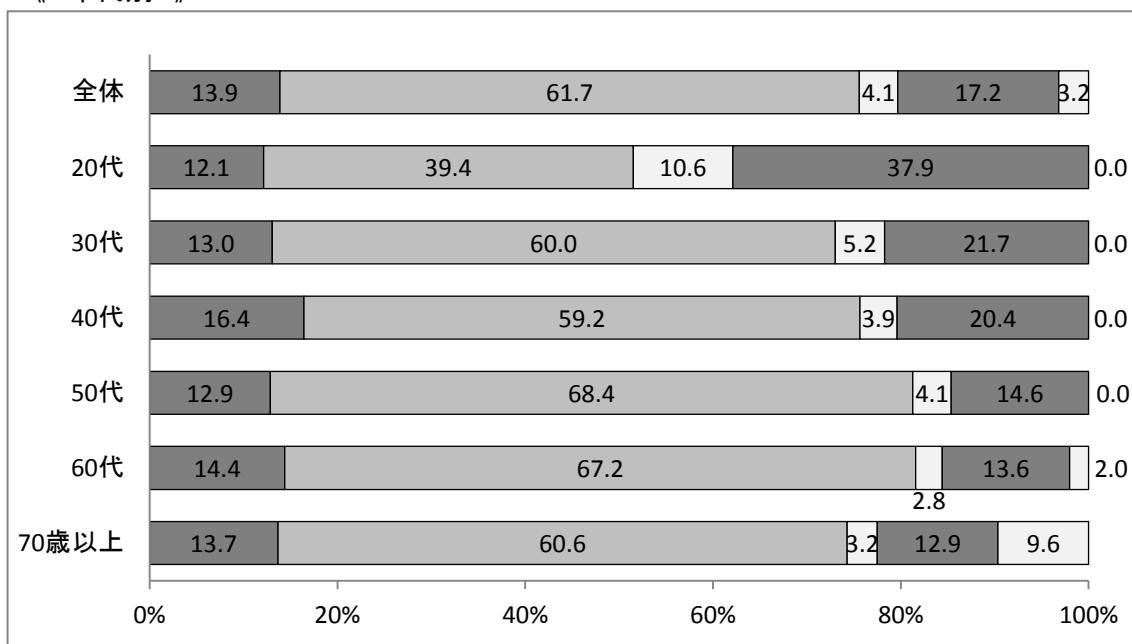
(1) 防災会議や対策本部の女性委員を増やしたり、防災計画や復興計画策定に女性が参画すること

- 「特に必要である」または「必要である」とする割合は、75.6%。
- 「特に必要である」または「必要である」割合は、男性80.6%、女性72.0%で、8.6ポイントの差となっている。

《 性別 》



《 年代別 》

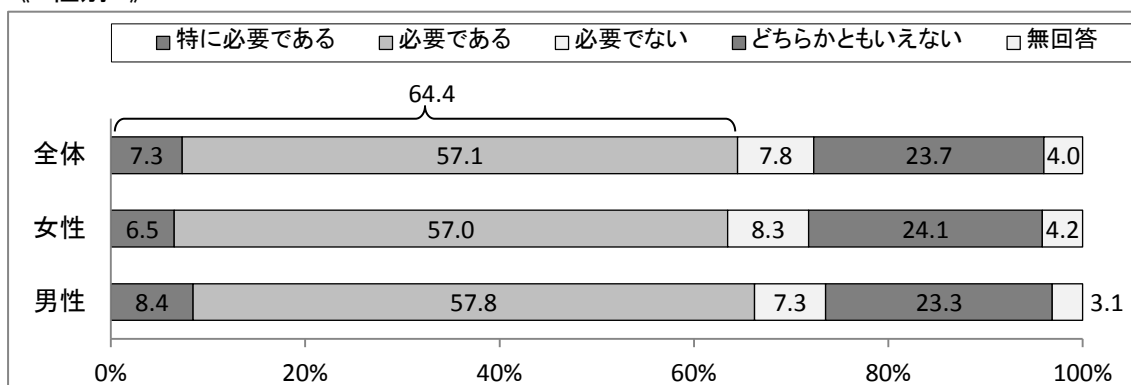


問10 あなたは、防災・災害復興対策において、男女共同参画の視点からどのような取組が必要であると思いますか。あなたのお考えに最も近いと思うものをそれぞれ1つ選んでください。

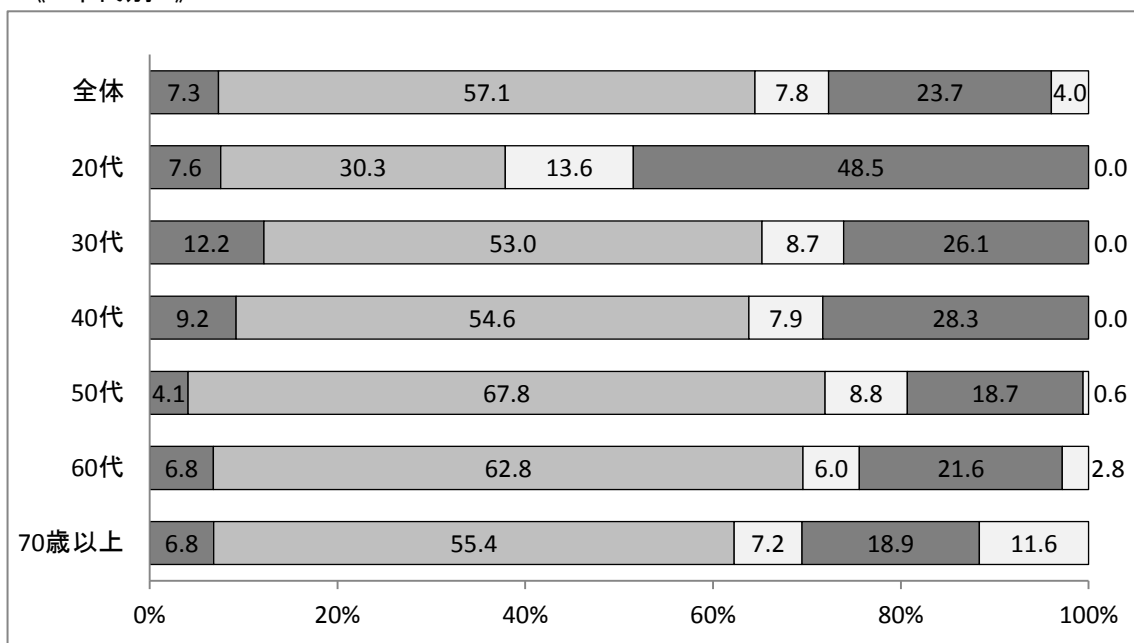
(2) 女性の消防団員、消防署員、警察官や県・市町村の防災担当職員が増えること

- 「特に必要である」または「必要である」とする割合は、64.4%。
- 「特に必要である」または「必要である」割合は、男性66.2%、女性63.5%となっている。

《 性別 》



《 年代別 》

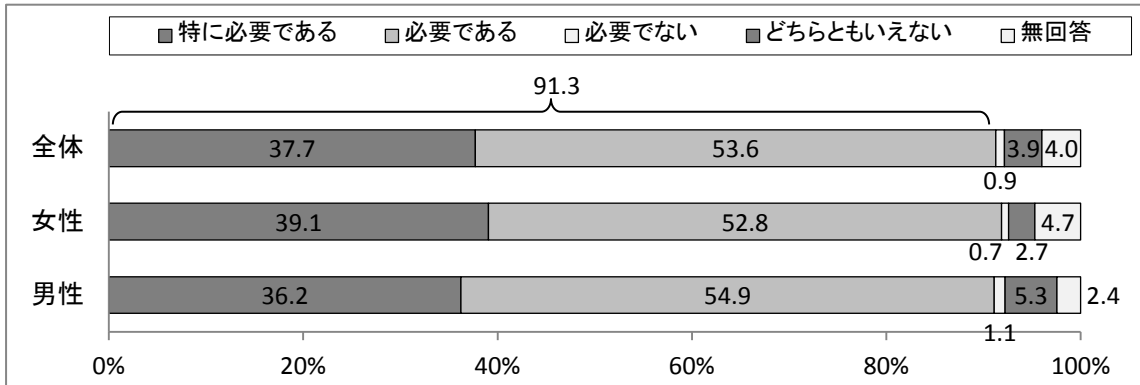


問10 あなたは、防災・災害復興対策において、男女共同参画の視点からどのような取組が必要であると思いますか。あなたのお考えに最も近いと思うものをそれぞれ1つ選んでください。

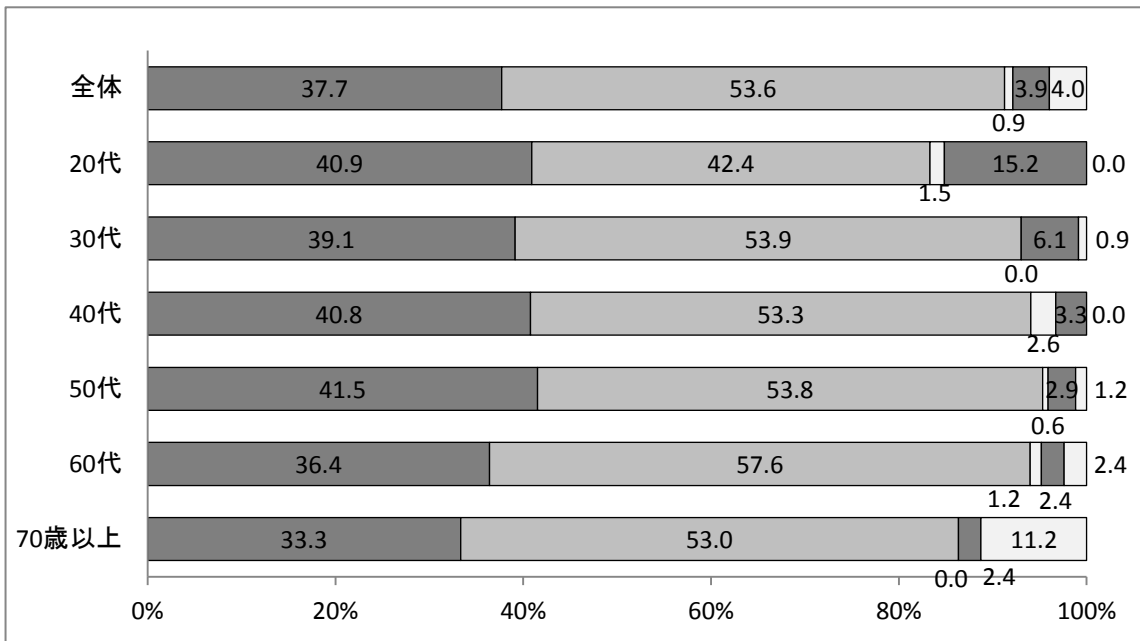
(3) 災害時の救援医療体制(診察・治療体制、妊産婦への支援体制など)

- 「特に必要である」または「必要である」とする割合は、91.3%。
- 「特に必要である」または「必要である」割合は、女性91.9%、男性91.1%となっている。

《 性別 》



《 年代別 》

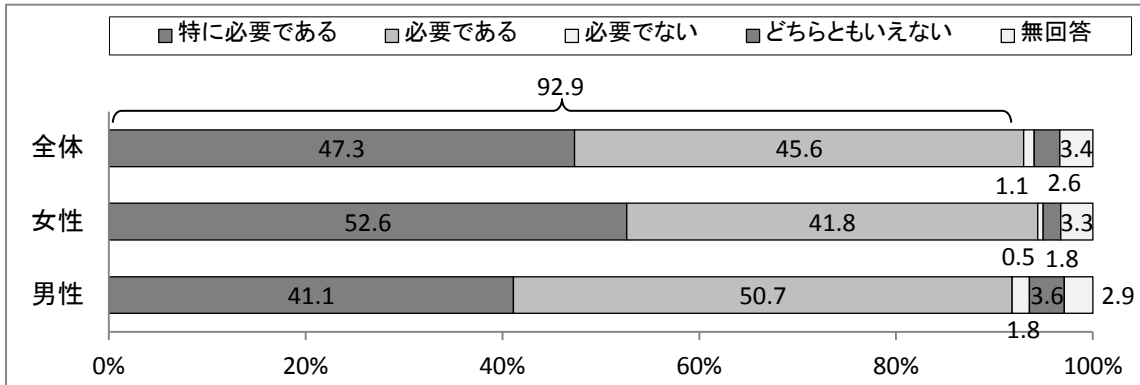


問10 あなたは、防災・災害復興対策において、男女共同参画の視点からどのような取組が必要であると思いますか。あなたのお考えに最も近いと思うものをそれぞれ1つ選んでください。

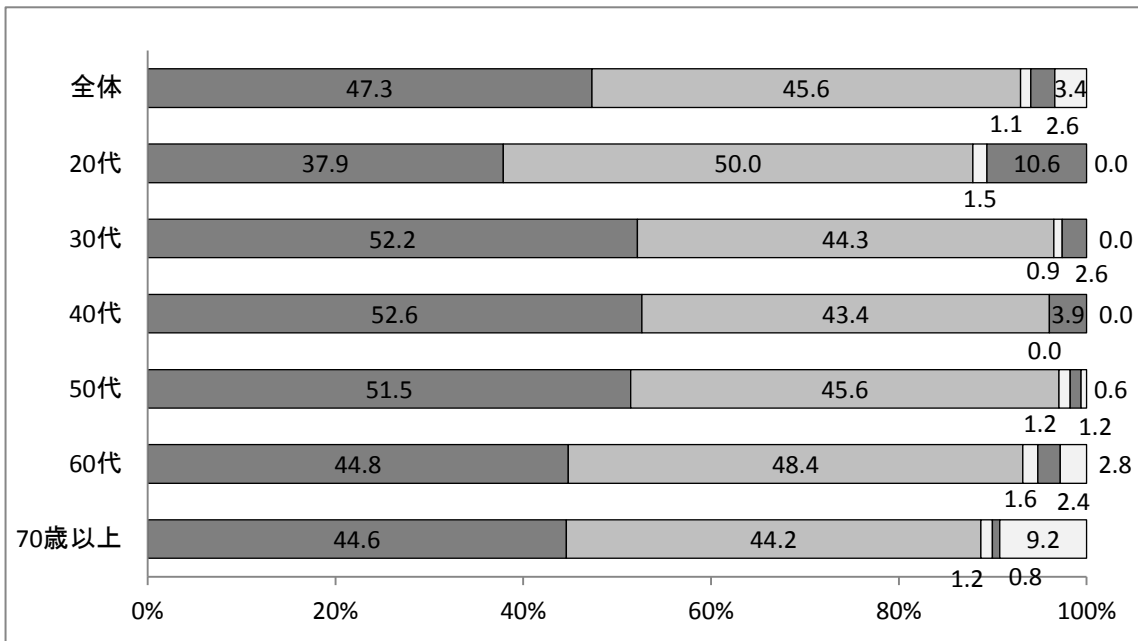
(4) 避難所の設備（男女別トイレ・更衣室・物干し場・防犯対策など）

- 「特に必要である」または「必要である」とする割合は、92.9%。
- 「特に必要である」または「必要である」割合は、女性94.4%、男性91.8%となっている。

《 性別 》



《 年代別 》

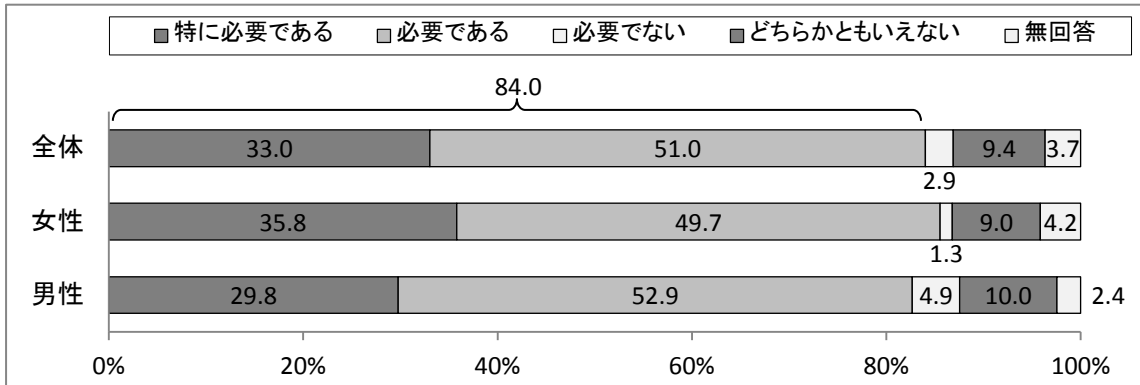


問10 あなたは、防災・災害復興対策において、男女共同参画の視点からどのような取組が必要であると思いますか。あなたのお考えに最も近いと思うものをそれぞれ1つ選んでください。

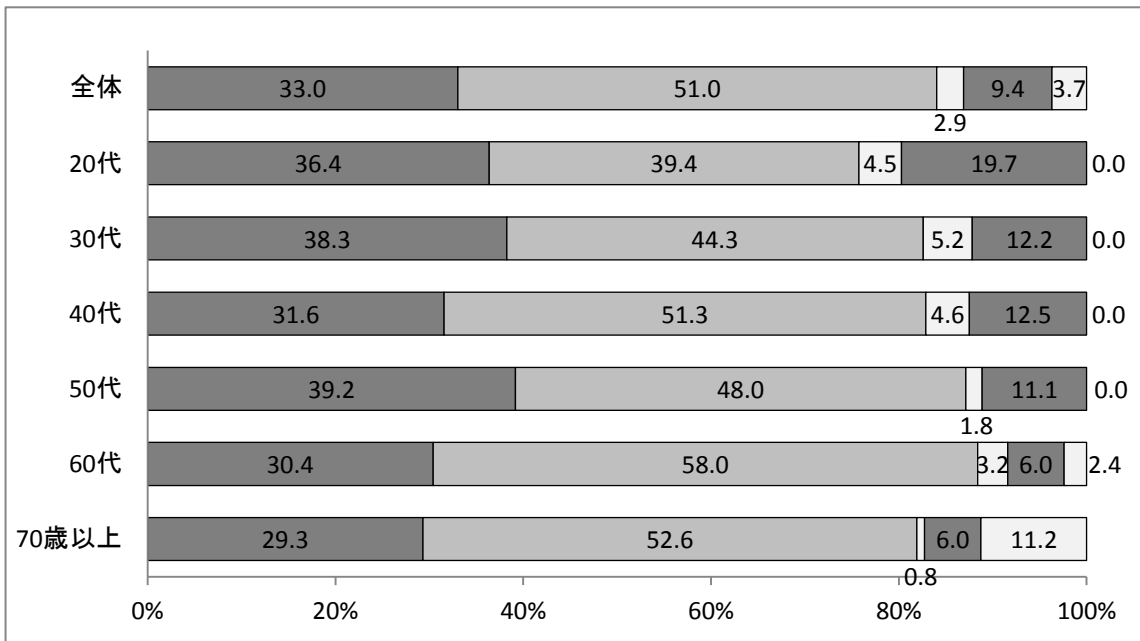
(5) 避難所運営責任者に男女がともに配置されること

- 「特に必要である」または「必要である」とする割合は、84.0%。
- 「特に必要である」または「必要である」割合は、女性85.5%、男性82.7%となっている。

《 性別 》



《 年代別 》

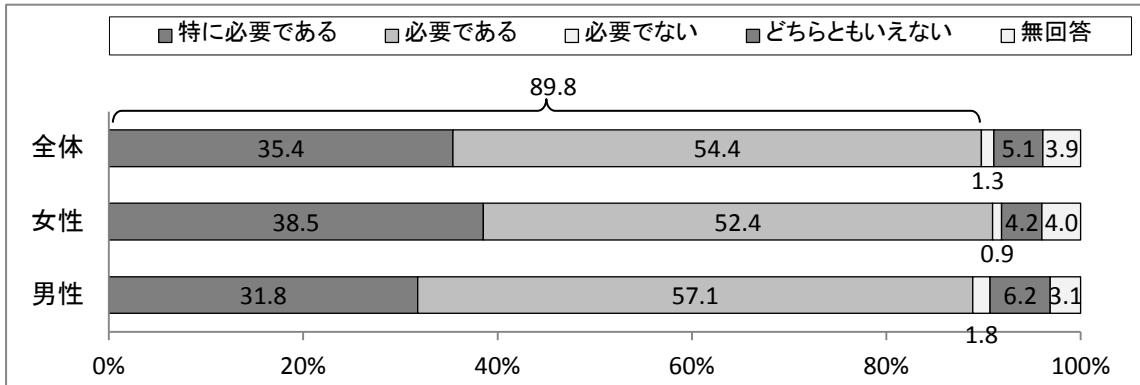


問10 あなたは、防災・災害復興対策において、男女共同参画の視点からどのような取組が必要であると思いますか。あなたのお考えに最も近いと思うものをそれぞれ1つ選んでください。

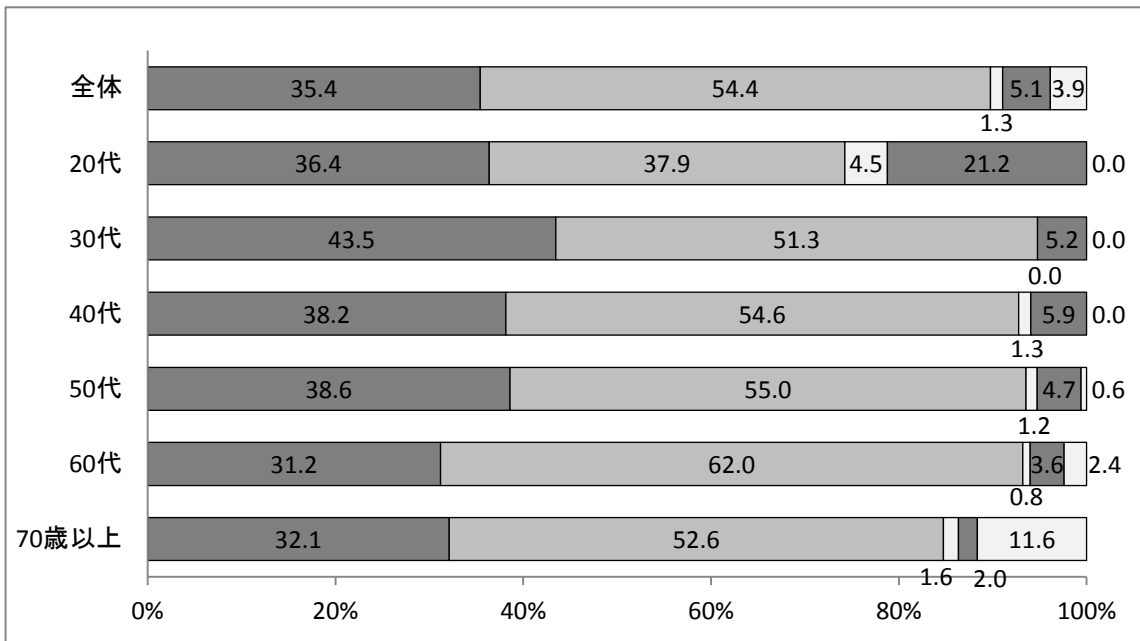
(6) 必要な備蓄品の把握や被災者に支給する際の配慮

- 「特に必要である」または「必要である」とする割合は、89.8%。
- 「特に必要である」または「必要である」割合は、女性90.9%、男性88.9%となっている。

《 性別 》



《 年代別 》

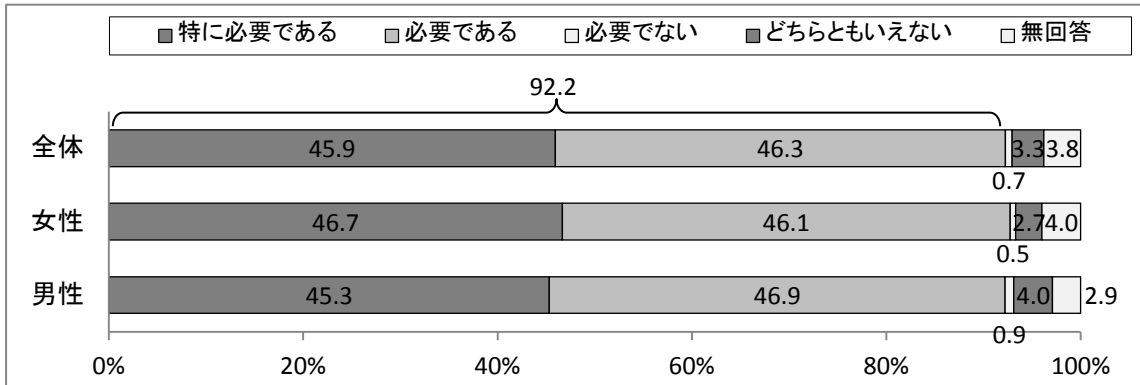


問10 あなたは、防災・災害復興対策において、男女共同参画の視点からどのような取組が必要であると思いますか。あなたのお考えに最も近いと思うものをそれぞれ1つ選んでください。

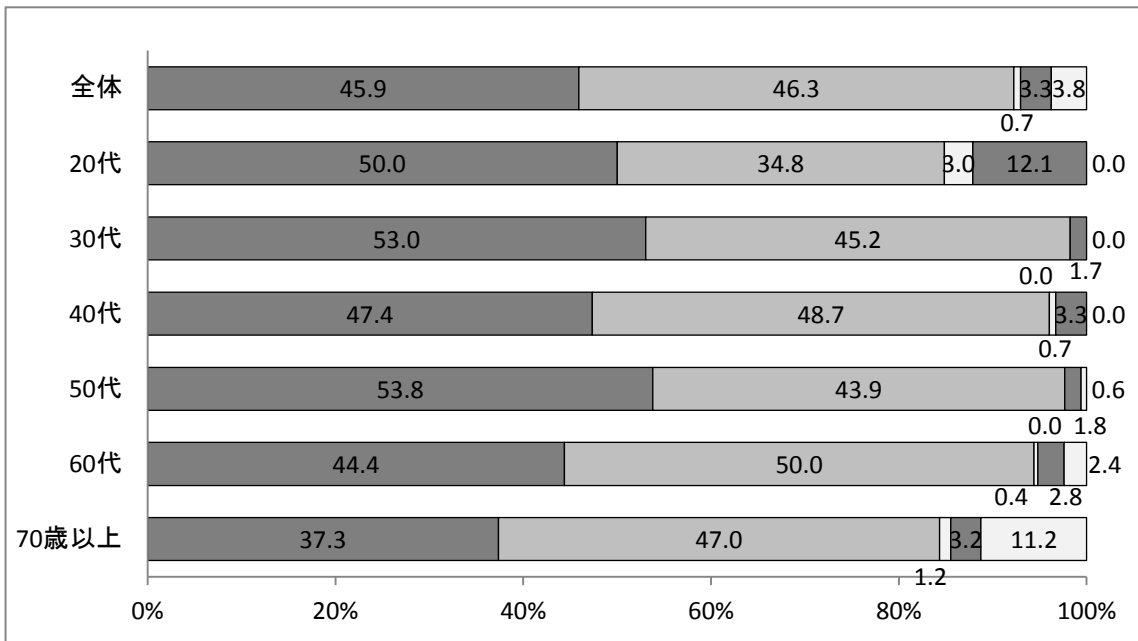
(7)被災者に対する相談体制(女性相談・男性相談)

- 「特に必要である」または「必要である」とする割合は、92.2%。
- 「特に必要である」または「必要である」割合は、女性92.8%、男性92.2%となっている。

《 性別 》



《 年代別 》

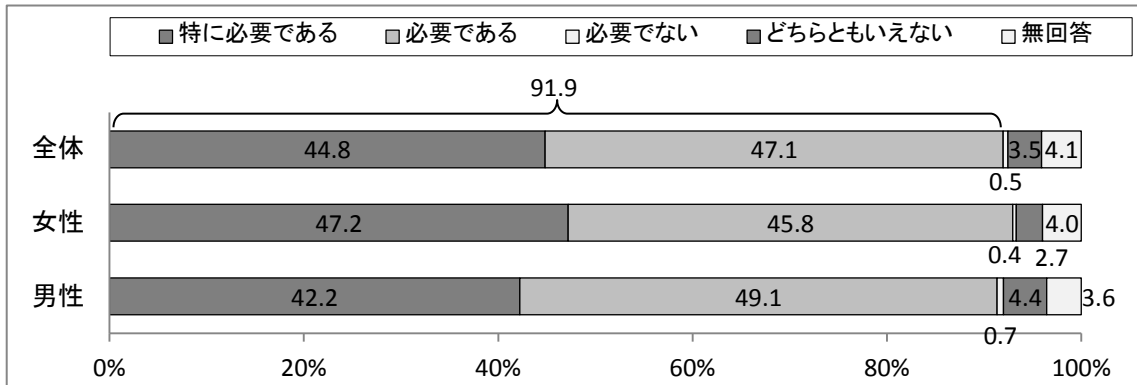


問10 あなたは、防災・災害復興対策において、男女共同参画の視点からどのような取組が必要であると思いますか。あなたのお考えに最も近いと思うものをそれぞれ1つ選んでください。

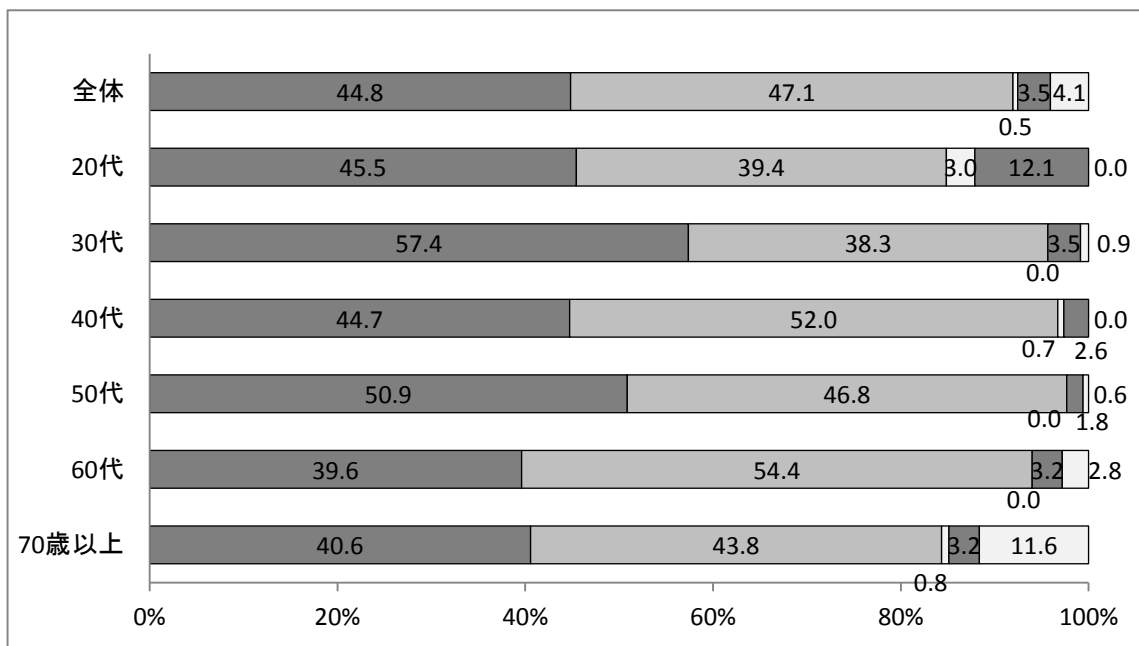
(8) 仮設住宅設置や生活再建支援における配慮(設計への意見反映や乳幼児の一時預かりなど)

- 「特に必要である」または「必要である」とする割合は、91.9%。
- 「特に必要である」または「必要である」割合は、女性93.0%、男性91.3%となっている。

《 性別 》



《 年代別 》

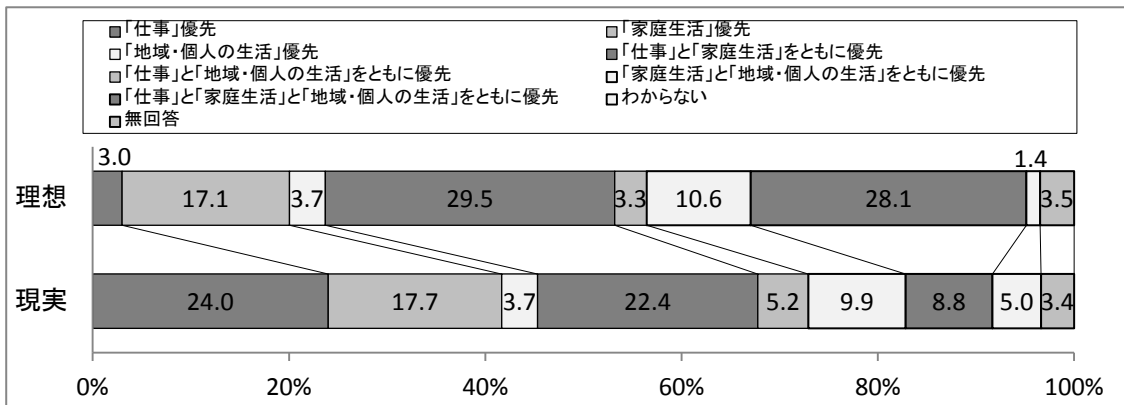


【7】 ワーク・ライフ・バランスについて

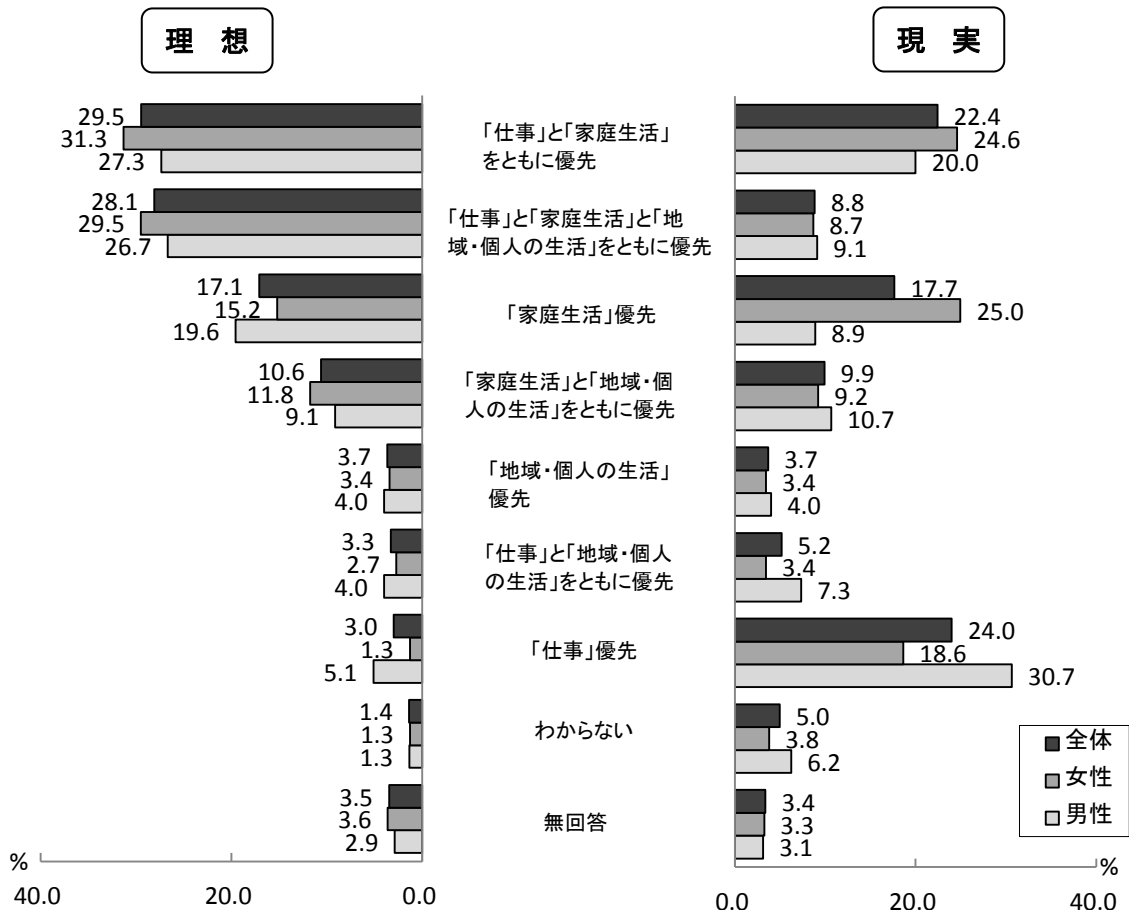
問11 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」(地域活動・学習・趣味・付き合い等)の優先度についておたずねします。

- (1) あなたが理想とする(希望する)生活に最も近いものを1つ選んでください。
- (2) あなたの現実の生活に最も近いものを1つ選んでください。

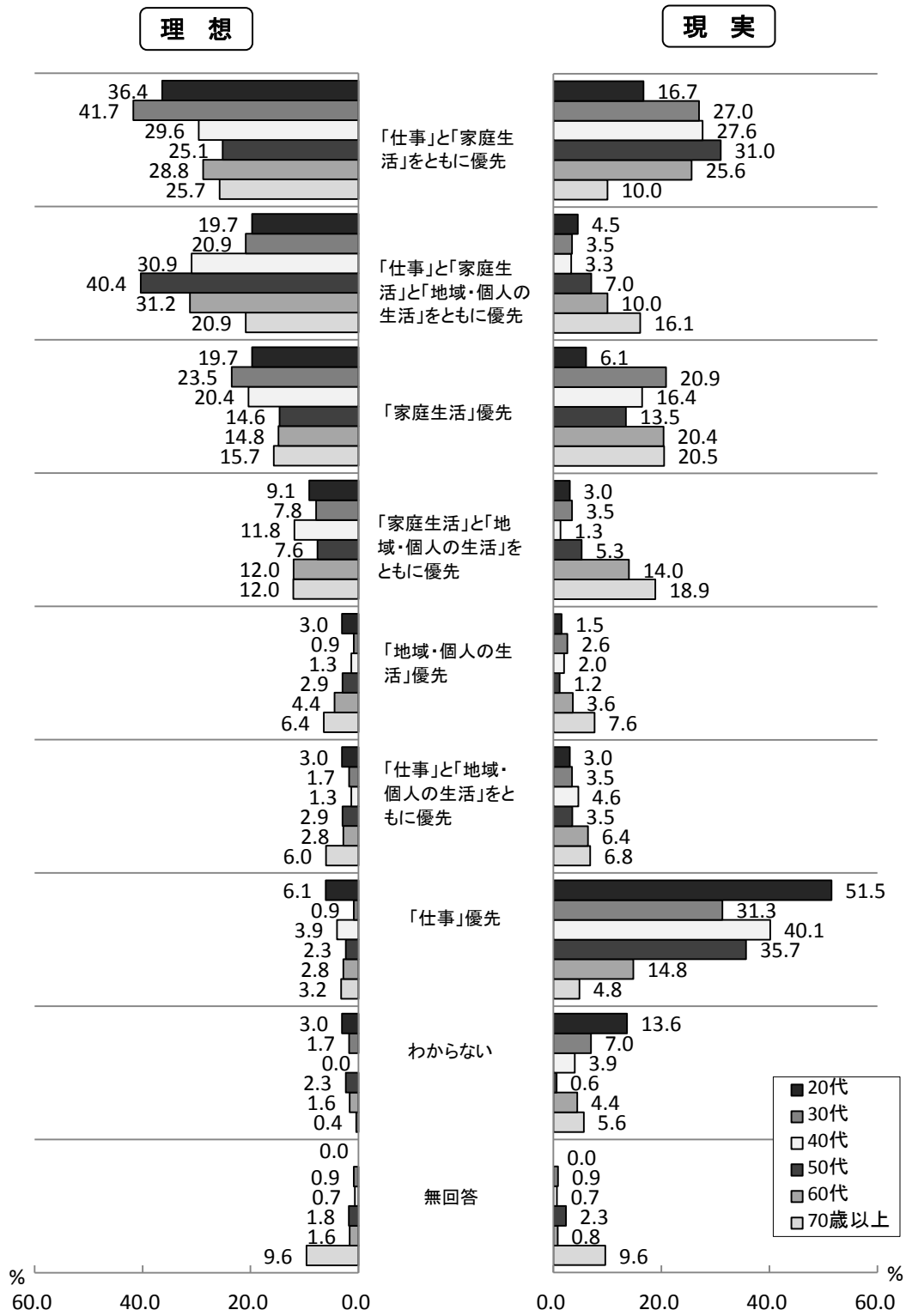
- 「仕事優先」を希望する割合は3.0%であるが、現実には24.0%が「仕事優先」となっている。
- 「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」を希望する割合は28.1%であるが、現実には8.8%となっている。



《 性別 》



《 年代別 》



《 性別・年代別 》

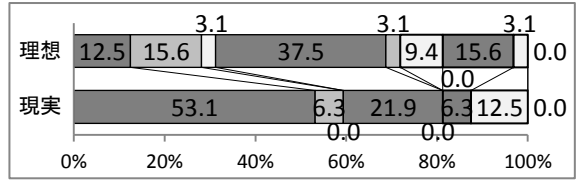
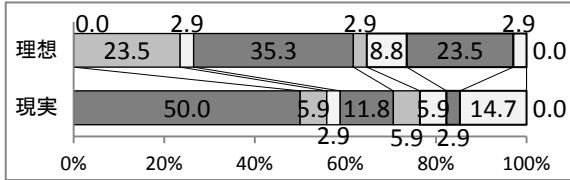
- 「仕事」優先
- 「地域・個人の生活」優先
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 無回答
- 「家庭生活」優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- わからない

《 女性 》

《 男性 》

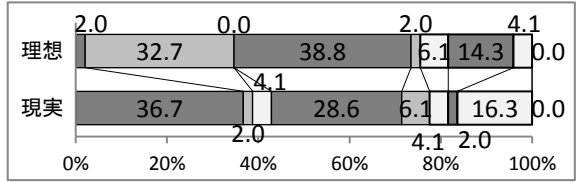
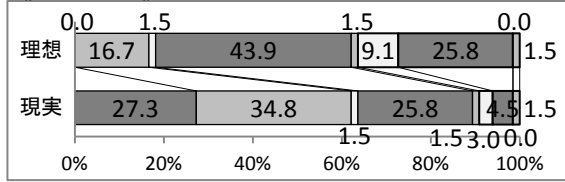
《 20代 》

《 20代 》



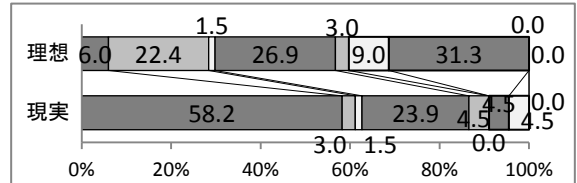
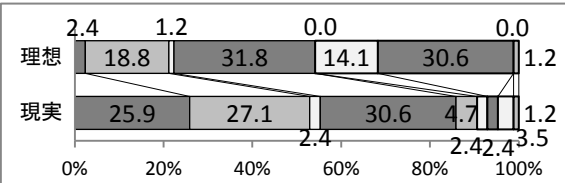
《 30代 》

《 30代 》



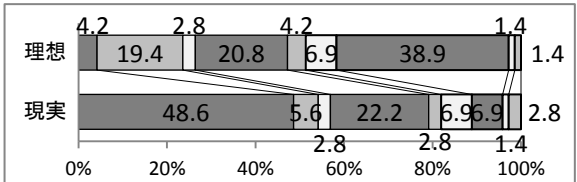
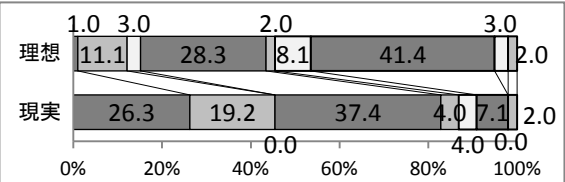
《 40代 》

《 40代 》



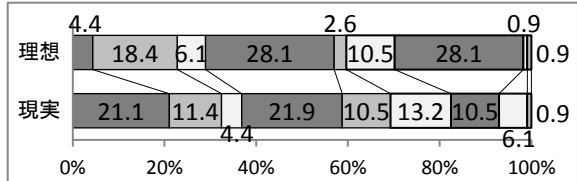
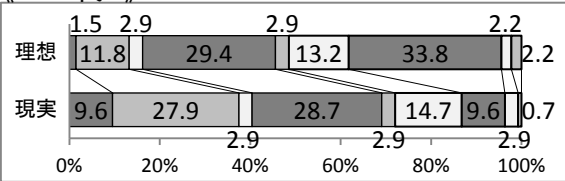
《 50代 》

《 50代 》



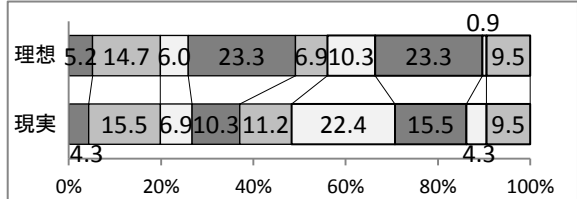
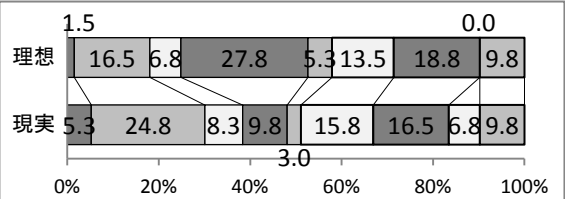
《 60代 》

《 60代 》

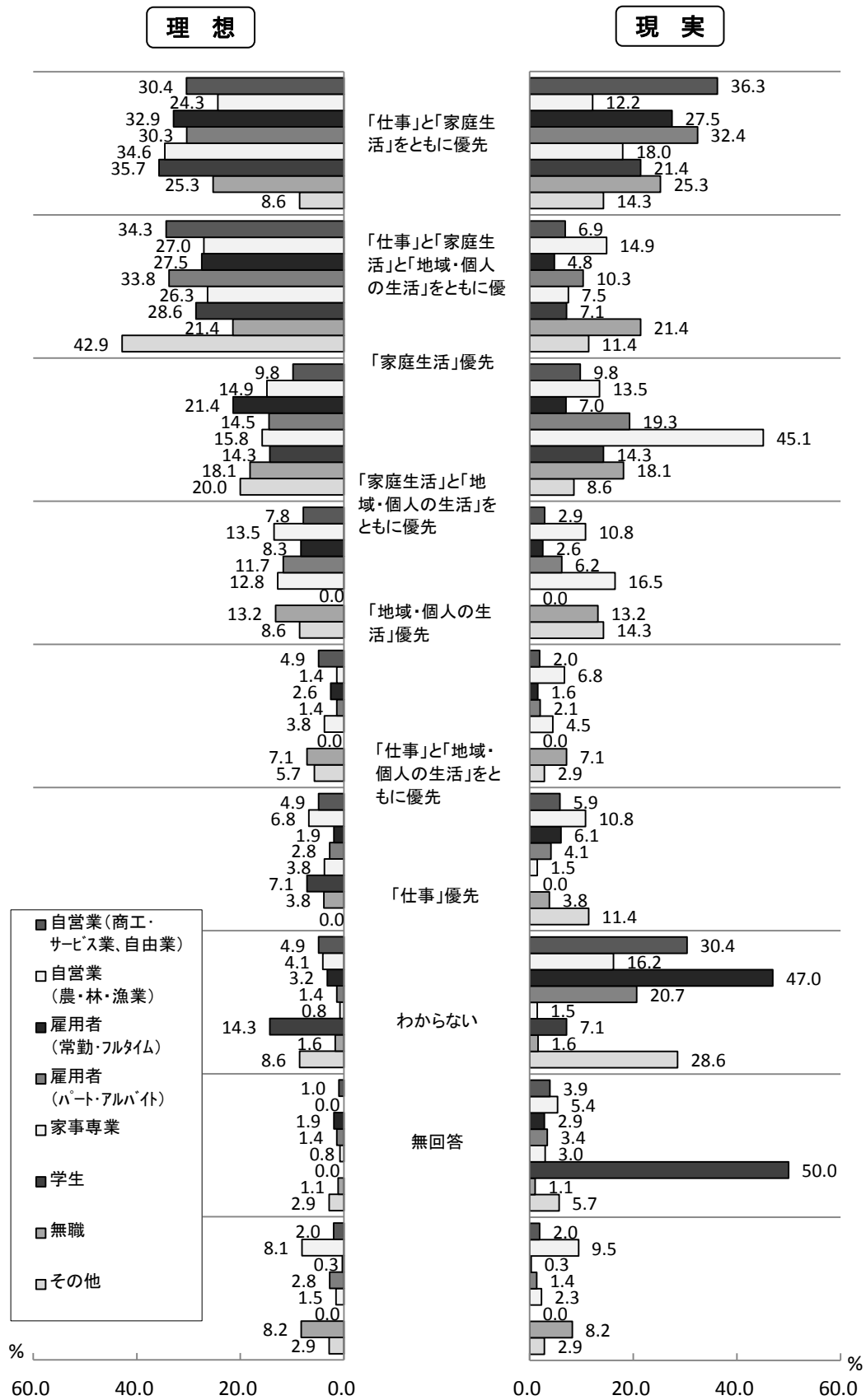


《 70歳以上 》

《 70歳以上 》



《 職業別 》 (n=998)

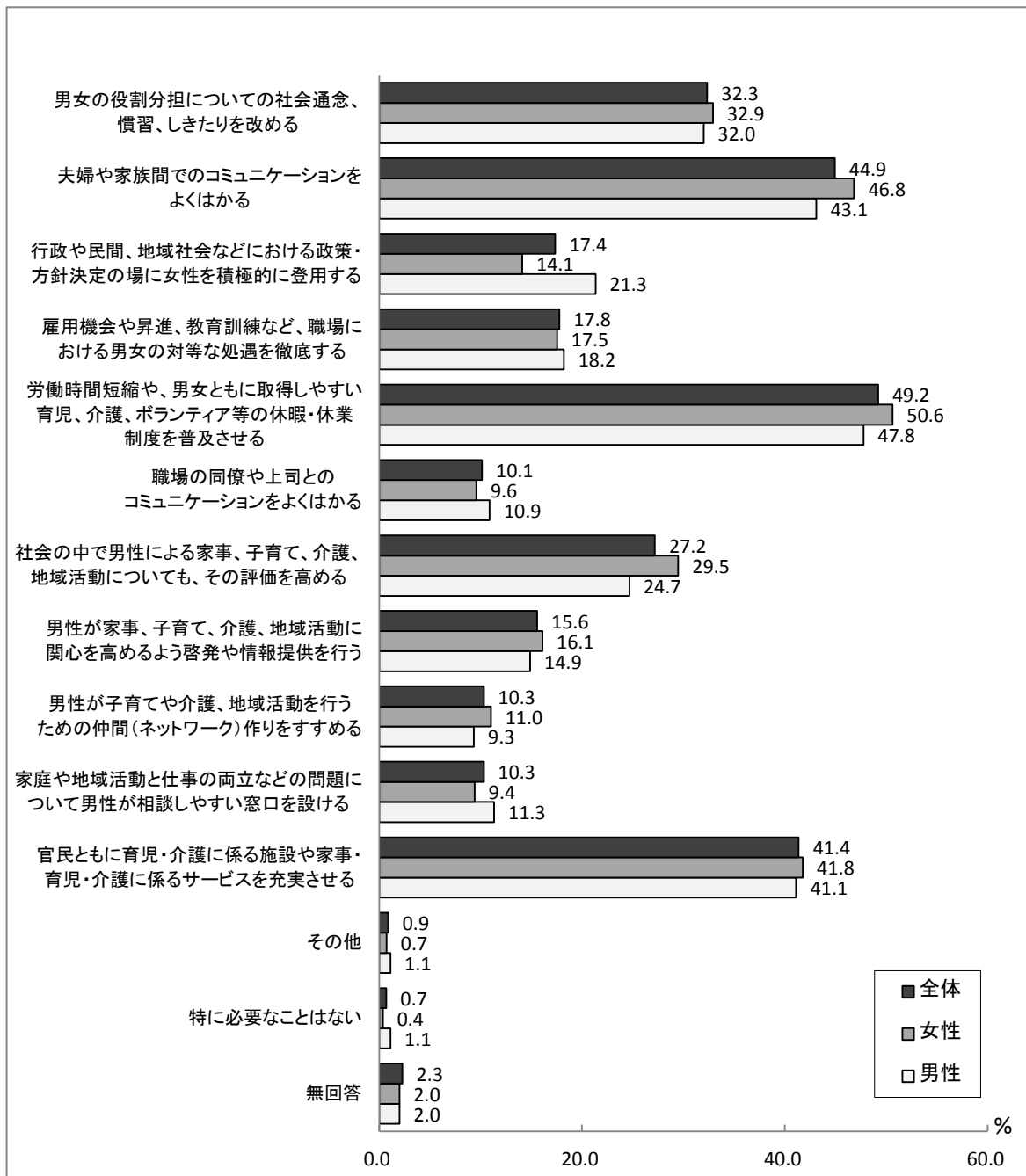


問12 今後、女性と男性がともに仕事、家庭、子育て、介護、地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。

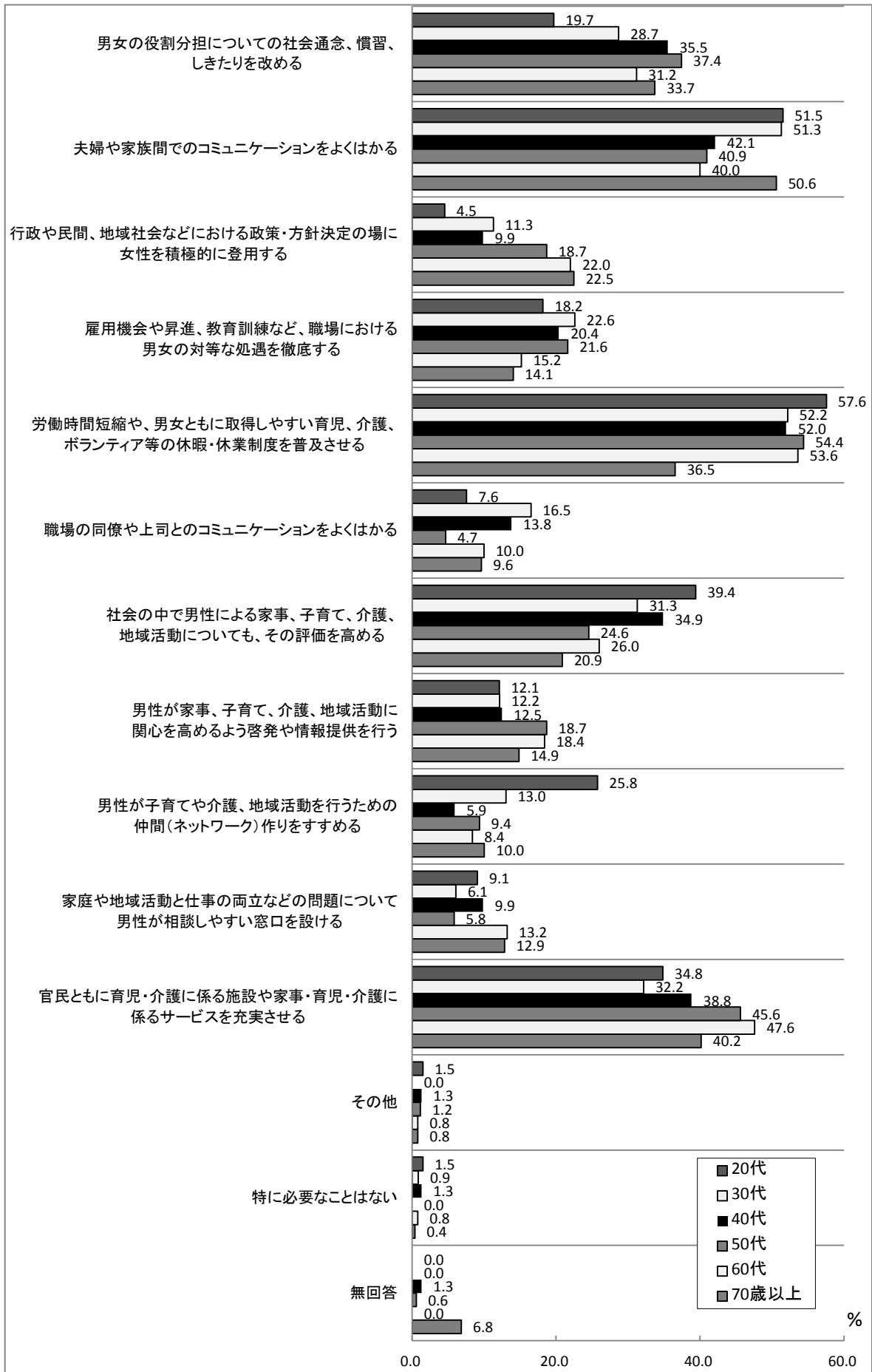
あなたのお考えに近いものを3つまで選んでください。

- 「労働時間短縮や、男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」が49.2%、続いて「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が44.9%、「官民ともに育児・介護に係る施設や家事・育児・介護に係るサービスを充実させる」が41.4%となっている。
- 年代別では、「労働時間短縮や、男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」がどの年代でも高いが、70歳以上では「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が最も高い。

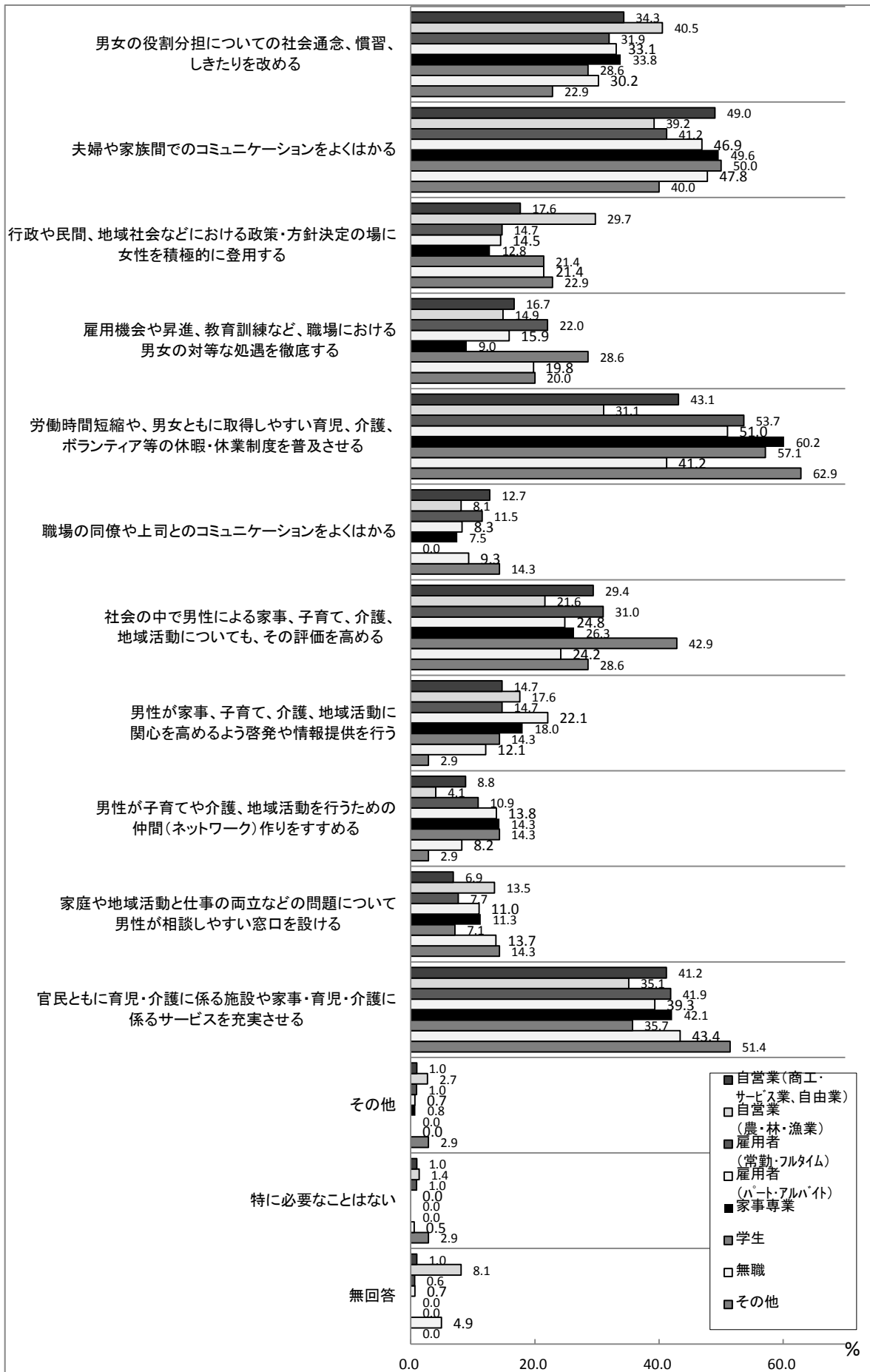
《 性別 》



《 年代別 》



《 職業別 》 (n=998)



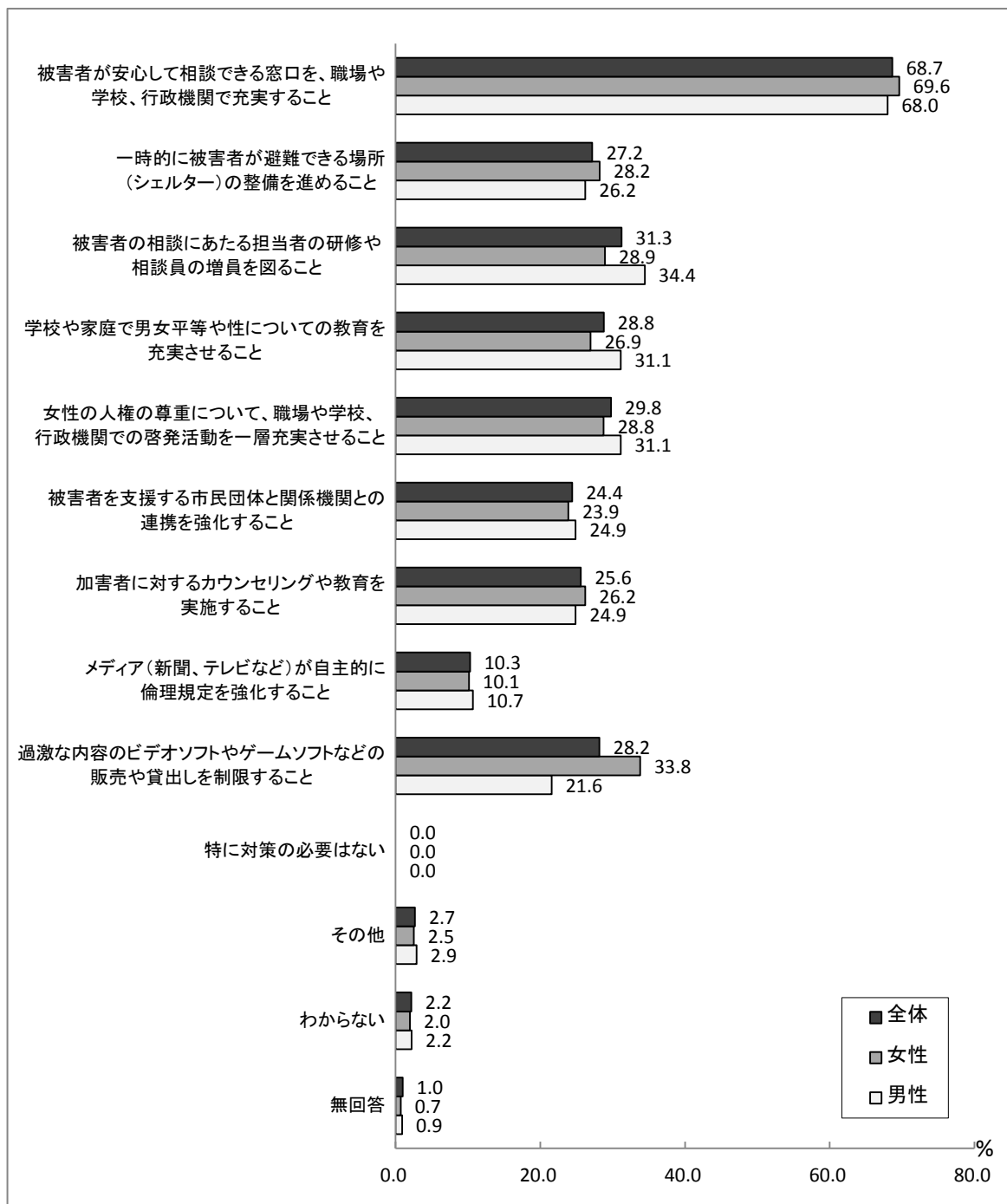
【8】 男女間の暴力への対策について

問13 性犯罪、夫婦間暴力、セクシュアル・ハラスメントなど、女性に対する暴力への対策としてどのようなことをしていいたらよいと思いますか。

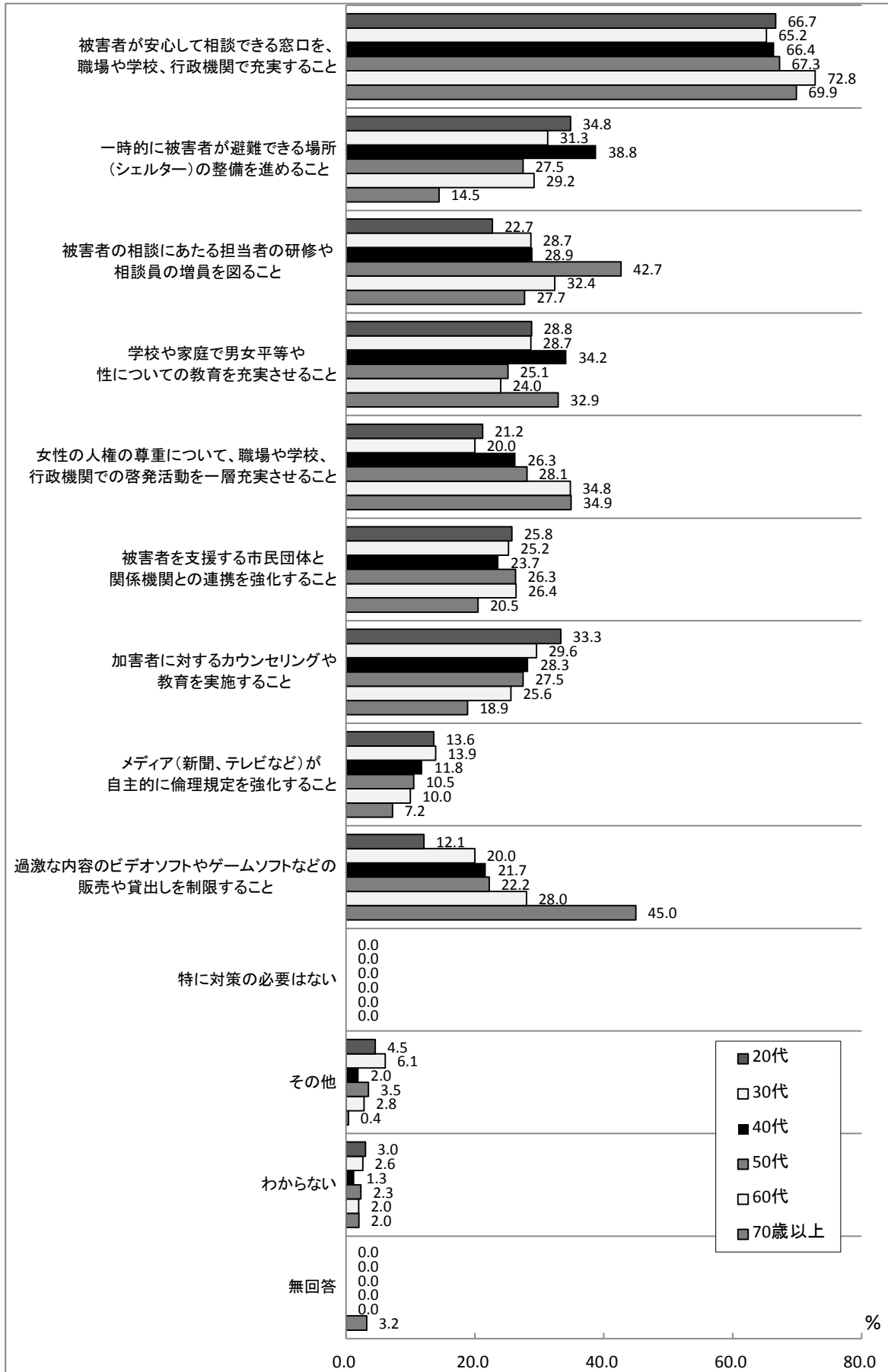
あなたのお考えに近いものを3つまでお選びください。

- 「被害者が安心して相談できる窓口を、職場や学校、行政機関で充実すること」が68.7%と最も高くなっている。

《 性別 》



《 年代別 》

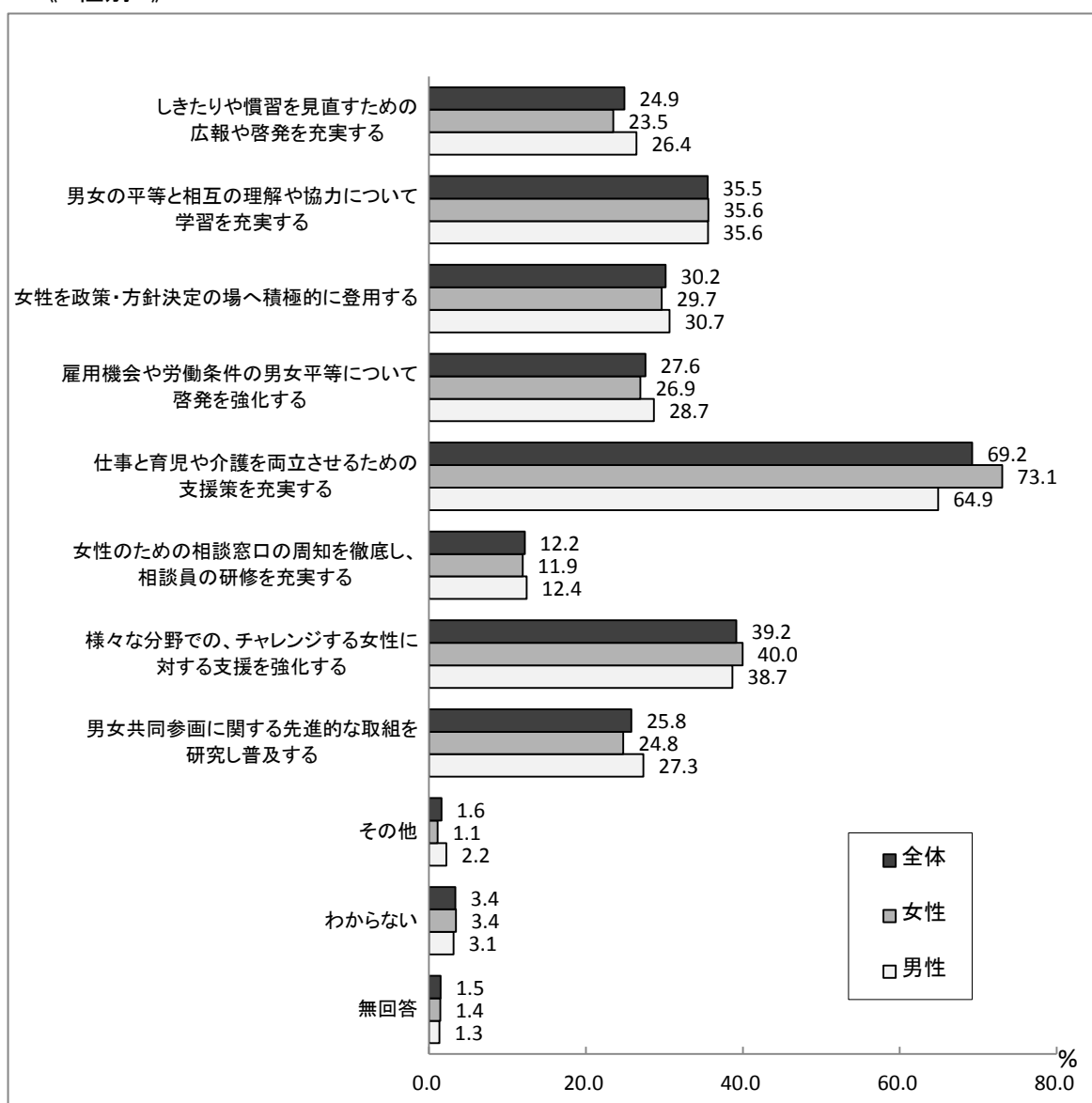


【9】 男女共同参画社会の実現について

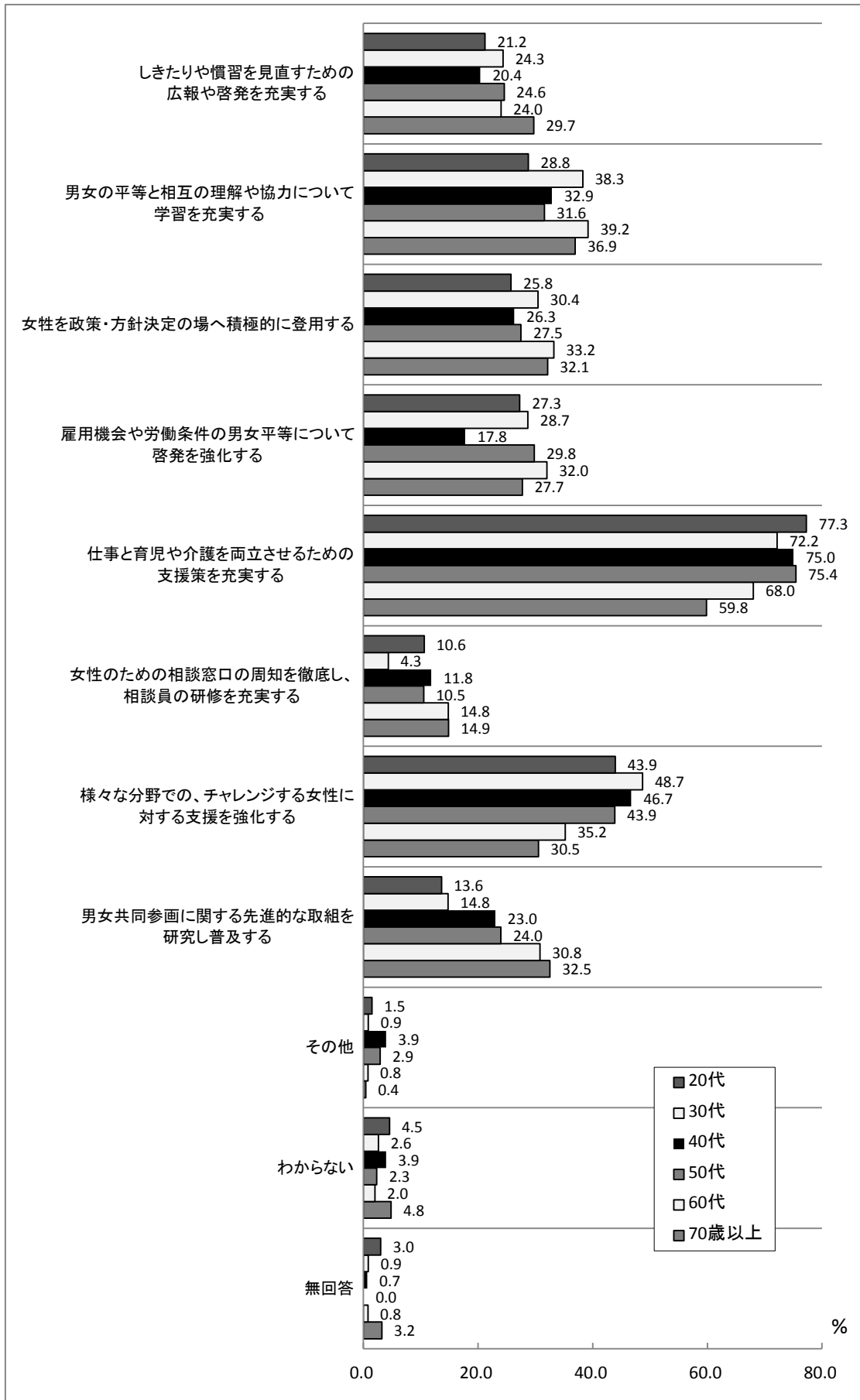
問14 男女共同参画社会づくりを進めるために、県はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。特に重要だと思うものを3つまで選んでください。

- 「仕事と育児や介護を両立させるための支援策を充実する」が69.2%と最も高く、「様々な分野での、チャレンジする女性に対する支援を強化する」が39.2%、「男女の平等と相互の理解や協力について学習を充実する」が35.5%となっている。
- 年代別では、「仕事と育児や介護を両立させるための支援策を充実する」は、どの年代でも高く、「様々な分野での、チャレンジする女性に対する支援を強化する」が、20～50代で高い。

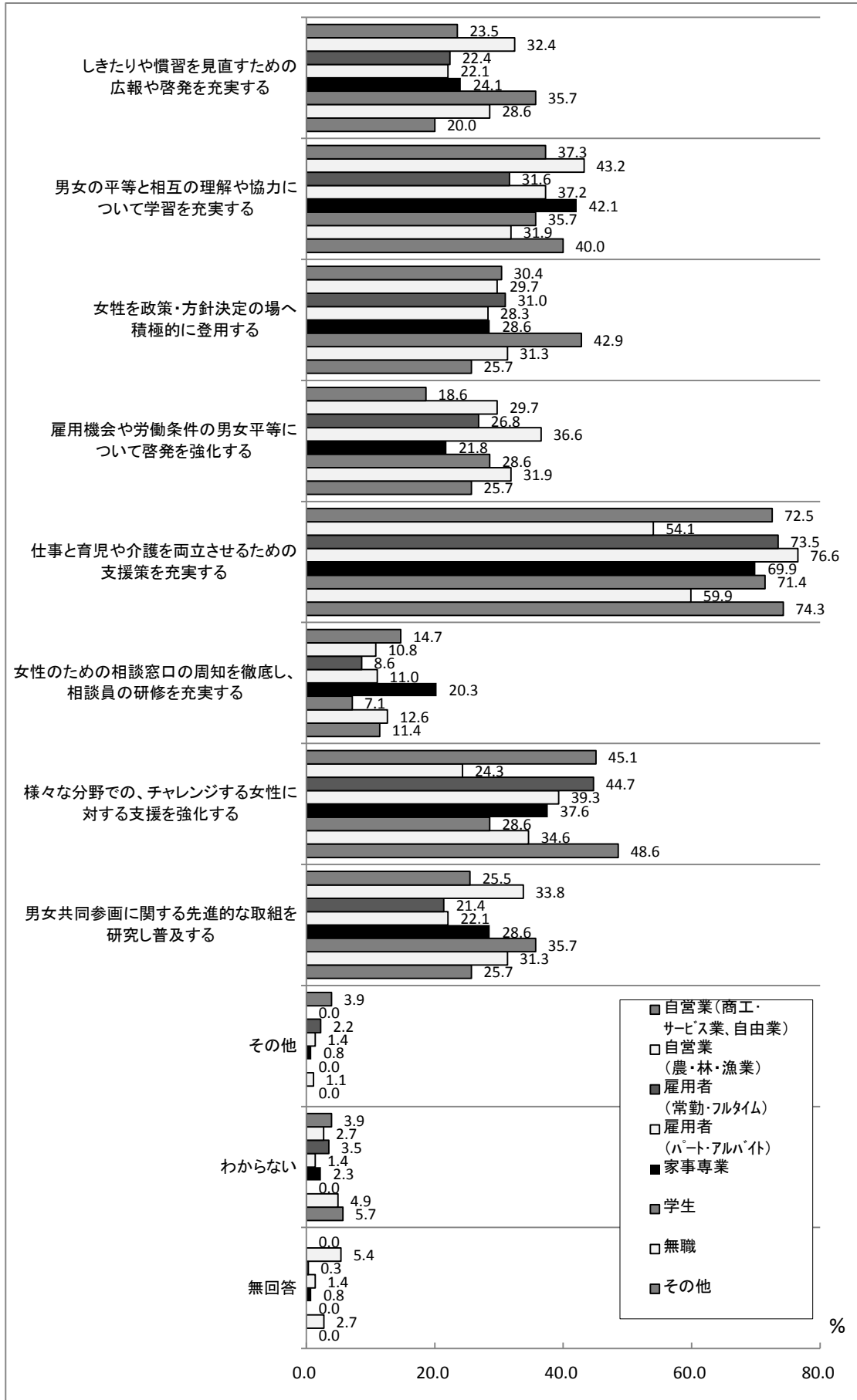
《 性別 》



《 年代別 》



《 職業別 》 (n=998)

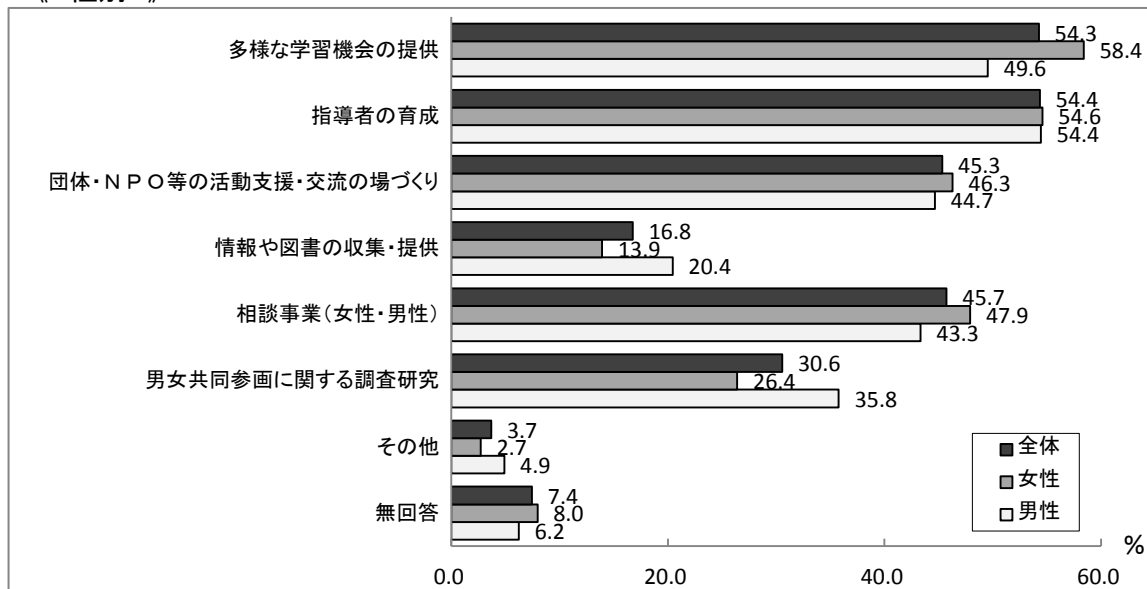


問15 岡谷市にある長野県男女共同参画センター“あいとぴあ”では、男女共同参画社会づくりの拠点施設として、各種講座の開催や情報提供、女性相談などを実施しています。

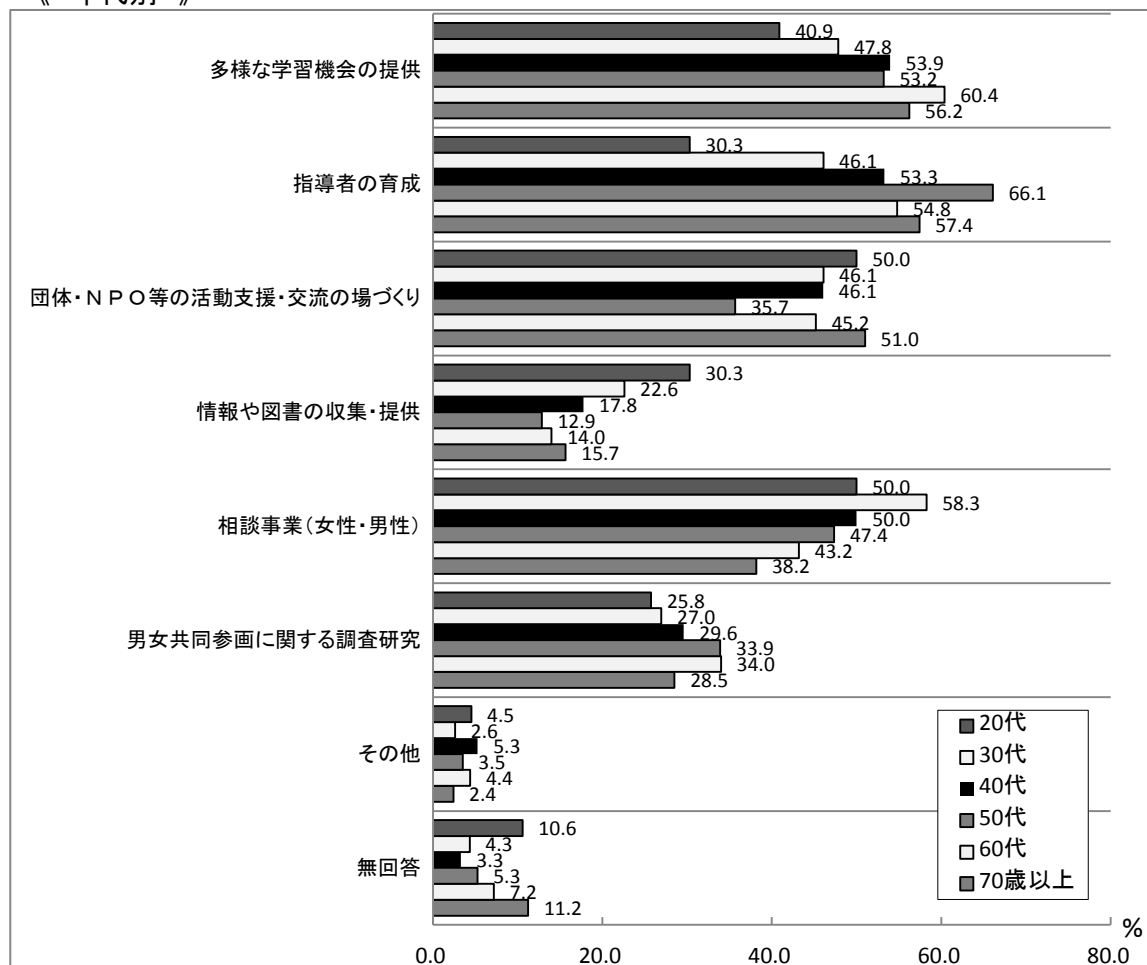
あなたは、この“あいとぴあ”の機能として何が重要だと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。

●「指導者の育成」が54.4%、「多様な学習機会の提供」が54.3%と高くなっている。

《 性別 》



《 年代別 》



《 職業別 》(n=998)

